



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 平成28年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造



## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として、平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」を実施しております。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに 1 週間程度派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）と公演を実施するものです。

市区町村の公共ホールを対象に、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、実施された全国 8 か所の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

## 目次

---

### 事業概要

平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	5
公共ホール現代ダンス活性化事業の考え方	7
事業の流れ	8

### 実施内容紹介(実施日程順)・コーディネーターレポート

JMS アステールプラザ (広島県広島市)	10
(公財) 福岡市文化芸術振興財団 (福岡県福岡市)	18
飯山市文化交流館なちゅら (長野県飯山市)	26
まなみーる 岩見沢市民会館・文化センター (北海道岩見沢市)	34
島根県民会館 (島根県)	42
八尾市文化会館プリズムホール (大阪府八尾市)	50
神戸文化ホール (兵庫県神戸市)	58
川西市みつなかホール (兵庫県川西市)	66

### 事業資料

公演パンフレット	76
平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	84
コーディネータープロフィール	89

# 事業概要

## 平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

### 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

### 2 実施内容

#### (1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
北海道岩見沢市	NPO 法人はまなすアート & ミュージック・プロダクション	まなみーる岩見沢市民会館・文化センター
長野県飯山市	飯山市	飯山市文化交流館なちゅら
大阪府八尾市	（公財）八尾市文化振興事業団	八尾市文化会館プリズムホール
兵庫県神戸市	神戸文化ホール指定管理者 神戸市民文化振興財団グループ	神戸文化ホール
兵庫県川西市	（公財）川西市文化・スポーツ振興財団	川西市みつなかホール
島根県	（公財）しまね文化振興財団	島根県民会館
広島県広島市	（公財）広島市文化財団	JMS アステールプラザ
福岡県福岡市	（公財）福岡市文化芸術振興財団	福岡市立中央市民センター

\*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

#### (2) 開催時期

平成 28 年 9 月～平成 29 年 3 月

#### (3) 事業内容

登録アーティストを約 1 週間の日程で地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下の事業を実施

##### ①地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募等によるホール内で実施するワークショップ（5～6回）

\*アウトリーチ（3回以上）

\*公募等のワークショップ（1回以上）

##### ②公演

有料のコンテンポラリーダンス公演（1回）

##### ③関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む）の学校等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ（1回）

#### (4) 研修会

##### ①全体研修会

日 時：平成 27 年 8 月 3 日(月)～5 日(水)

場 所：東京芸術劇場 \*地域創造フェスティバル 2015 と同時開催

内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

##### ②現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

#### (5) 費用負担

地域創造と開催地の地方公共団体等が負担する主な経費区分

##### 1) 地域創造が負担する経費

###### ①地域交流プログラム、公演及び関係者向けワークショップ

a) 登録アーティスト（ソロ又はデュオ。ソロの場合はアシスタント 1 名まで負担可能）の派遣に係る経費

公演出演料（1 回）、地域交流プログラム（5～6 回）及び関係者向けワークショップ（1 回）講師料、宿泊費及び日当（6 泊 7 日以内）、現地移動費を除く交通費（往復 1 回分）、出演者に係る損害保険料

\*関係者向けワークショップに係る交通費は、現地下見（個別研修）に係る経費に含む。

b) 公演に係る共演者の派遣に係る経費（1 名まで）

c) テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名まで）の派遣に係る経費

###### ②現地見（個別研修）

コーディネーター及び登録アーティスト（最大 2 回まで）、並びに必要と判断されたテクニカルスタッフ等（1 回まで）の派遣に係る経費

##### 2) 開催地の地方公共団体等が負担する主な経費

上記 1) 以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・音響・照明などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

#### (6) 事業実施に対する支援

##### ①全体研修会の開催

##### ②コーディネーターの派遣

#### (7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

### 3 平成 28 年度コーディネーター

佐東 範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表）

志賀 玲子（プロデューサー）

菊丸喜美子（プロデューサー、(株) CAN 代表取締役）

花光 潤子（NPO 法人魁文舎代表）

平岡 久美（Dance in Deed !代表）

清水 幸代（LANDSCAPE 代表）

#### 4 平成 28 年度登録アーティスト(五十音順)

登録アーティストは全国公募の選考会により選ばれた 6 組 6 名。

登録期間は 2 年間 (平成 27・28 年度)



©平野太呂

16 歳よりダンスを始め、ジャズダンス、クラシックバレエ、モダンダンスの基礎を学ぶ。加えてボディーワークを学び、身体の構造に対する知を深め、自身のメソッド、「コンタクト×バランス」「ポイントワーク」を開発。ダンサーとして日本のダンスをリードする振付家に多数起用されるほか、教師、振付家としての評価も高い。2004 年に設立された Noism の初代メンバーである。近年は、小学校へのワークショップの提供や、ホールと提携した子どものための作品創りなど活動の幅を広げている。

**青木尚哉**



©竹田岳

1987 年舞踏家・古川あんにゅに師事。1995 年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」を結成。1996 年フランス・パニョレ国際振付賞を受賞。2002 年第 1 回朝日舞台芸術賞・寺山修司賞を受賞。2005～2006 年バックパックを背負って半年間の世界一周の旅に出る。2011 年「輝く未来」を解散。小中高生へのワークショップや振付、おやじが踊って給仕する「おやじカフェ」のプロデュースを国内外で行う。京都造形芸術大学客員教授。青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム修了。2015 年新カンパニー GERO を結成して 10 年ぶりに創作活動を再開。

**伊藤キム**



©Masakazu Yoshikawa

幼少より、クラシックバレエからストリートダンスまで幅広く経験。桜美林大学にて木佐貫邦子に師事。2009 年ダンスカンパニー「Baobab」を旗揚げ。土着的な圧倒的群舞とお芝居の要素を持ち味に注目を集める。10 回の単独公演のほか、劇場から屋外まで多数フェスティバルに参加。近藤良平・杉原邦生・山本卓卓作品等に多数出演。近年では舞台・CM・映画での作品の振付、WS やレッスン講師なども積極的に行う。トヨタコレオグラフィーアワード 2012「オーディエンス賞」、第 3 回エルスール財団新人賞<コンテンポラリー部門>を受賞。急な坂スタジオサポートアーティスト。尚美学園大学非常勤講師。

**北尾 亘**



©松本和幸

タバマ企画主宰。3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を追求するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等様々な表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始める。滑稽なまでに紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マスダンザ賞」をダブル受賞。

**田畑真希**



1998 年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である鷹赤兒に師事。2002 年より自らの振付・演出作品の創作を開始。緻密な振付で構成する作品は、新たな舞踏の可能性を示し注目されている。2008 年文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井勲、ジョセフ・ナジの舞台など客演も多数。舞踏の特性を活かしたワークショップやインリーチは、各分野のアーティストのみならず、子供から高齢者まで幅広く好評を得ている。第 34 回舞踊批評家協会新人賞受賞。

**田村一行**



©FUZZY

ANTIBODIES Collective 振付家・ダンサー。10 歳からダンスをはじめ。2000～2014 年「Dance Company BABY-Q」を主宰。国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。トヨタコレオグラフィーアワード、横浜ソロメデュオ〈Competition〉+などで大賞を受賞。2015 年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を音楽家のカジワラトシオと結成。多ジャンルのアーティストとともに大掛かりな舞台作品制作やパフォーマンス、インスタレーションなど全国並びに海外にて他数実践している。またダンサー育成の WS や学校へのアウトリーチなども精力的に展開し、地域に根ざした活動を行う。

**東野祥子**



## 平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

### 1 期 日

平成 27 年 8 月 3 日(月)～5 日(水)

\*地域創造フェスティバル 2015 と同時開催

### 2 会 場

東京芸術劇場

### 3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップと作品に触れ、理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

### 4 プログラム内容

8 月 3 日(月)

時間	会場：ミーティングルーム 7、シンフォニースペース
14:00～14:15	開講式・オリエンテーション
着 替 え ・ 休 憩	
14:30～15:30	セッション①「ワークショップ」 講 師：アーティスト 新井英夫、板坂記代子（アシスタント）
着 替 え ・ 休 憩	
15:50～16:35	セッション②「ダン活事業概要」 説 明：地域創造
休 憩	
16:45～18:45	セッション③「ダン活アウトリーチ&ダンス制作の留意事項」 講 師：堤康彦（NPO 法人芸術家と子どもたち代表）*アウトリーチ コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子*ダンス制作、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、 清水幸代

8月4日(火)

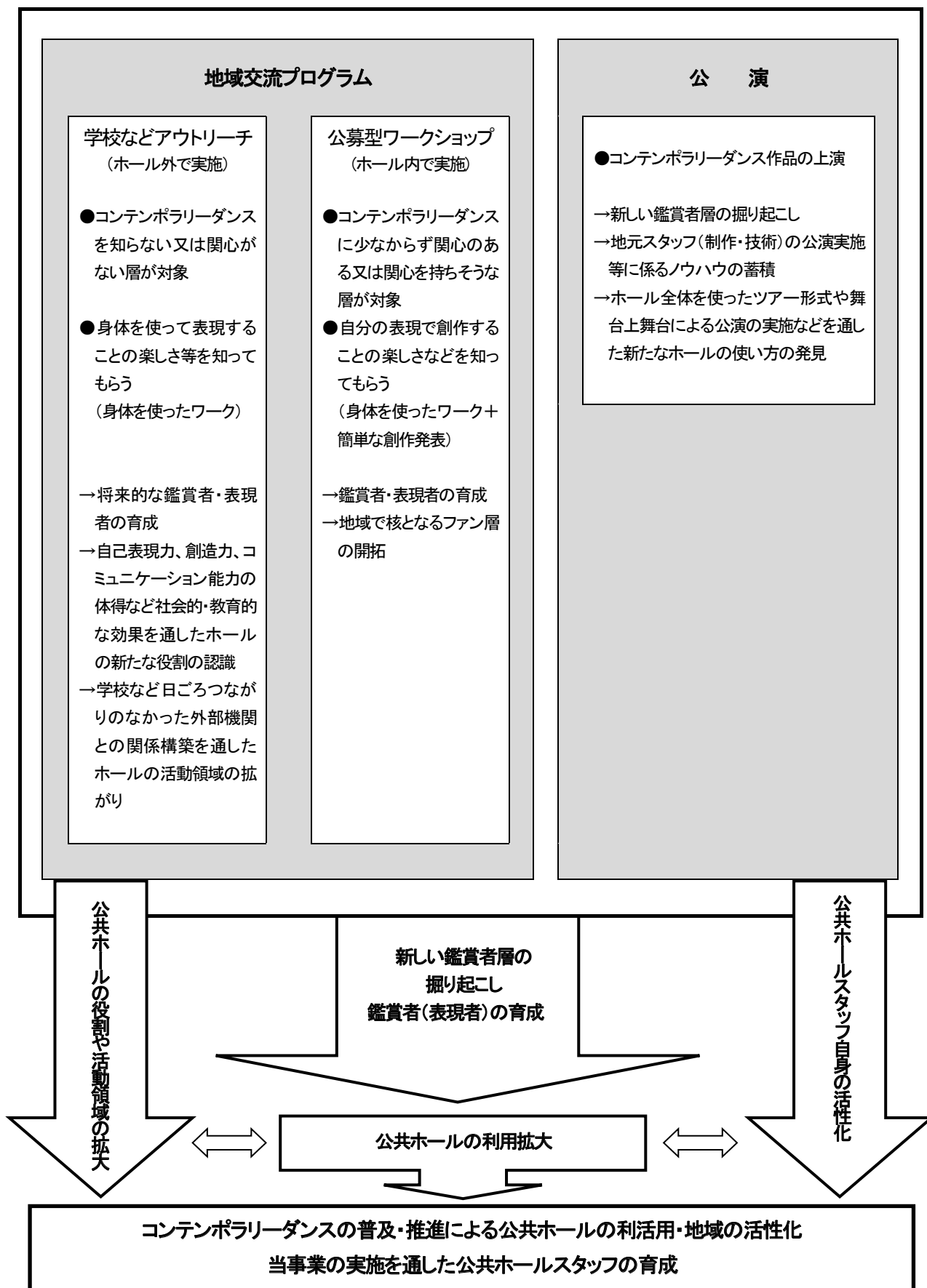
時間	会場：ミーティングルーム7、シアターイースト・ウエスト
10:00～12:00	セッション④「プレゼンテーションの前に」 講師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代
着替え・休憩	
13:00～14:15	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」＊ (登録アーティスト3組3名)
休憩	
14:25～15:40	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」＊ (登録アーティスト3組3名)
着替え・休憩	
16:10～17:40	セッション⑥「アーティストQ&A」 実施団体担当者、登録アーティスト、コーディネーター
移動	
17:50～19:20	交流会（情報交換会）

\*のセッションは、地域創造フェスティバル2015のプログラムとして公開

8月5日(水)

時間	会場：ミーティングルーム7、シアターイースト
10:30～12:00	セッション⑦「ダン活のススメ」＊ 講師：前野隆司（慶應義塾大学大学院SDM研究科教授） コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子 事例紹介ホール担当者 水谷隆仁（ひたちなか市文化会館） 筒井亮太（高知市文化プラザかるぼーと）
休憩	
13:00～14:30	セッション⑧「ダン活の広報を考える」 講師：コーディネーター 志賀玲子（進行）、佐東範一、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代
休憩	
14:45～16:25	セッション⑨「フィードバック」 講師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代
16:25～16:50	事務連絡・閉講式

\*のセッションは、地域創造フェスティバル2015のプログラムとして公開



# 事業の流れ(9月実施のケース)

時期	(一財) 地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
平成27年度 8/3~5	<b>全体研修会(アーティストプレゼンテーション)</b>			
8/21締切	実施計画案の確認 (仮)日程調整		実施計画案作成・提出 (仮)日程調整	
9月下旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
平成28年度 4月上旬	決定通知発送		各種準備 (内容詰め、宿泊手配、制作スケジュールの打合せ等)	
4月下旬	コーディネーター アーティストの派遣	個別研修(2回) (~2カ月前)		
7月上旬	計画書の内容確認		実施計画書作成 実施計画書提出 (事業実施2カ月前)	
	契約書作成 契約締結		契約締結	
			広報、各種調整 (テクニカル、全体スケジュール、当日スタッフ体制等の調整)	
9月	<b>事業実施</b>			
10月	出演料等支払		実績報告書提出 (事業終了後1カ月以内)	出演料等請求
平成29年度 6月	事業報告書発行			

# 実施内容紹介

## (実施日程順)

JMS アステールプラザ（広島県広島市）

（公財）福岡市文化芸術振興財団（福岡県福岡市）

飯山市文化交流館なちゅら（長野県飯山市）

まなみーる 岩見沢市民会館・文化センター（北海道岩見沢市）

島根県民会館（島根県）

八尾市文化会館プリズムホール（大阪府八尾市）

神戸文化ホール（兵庫県神戸市）

川西市みつなかホール（兵庫県川西市）



# スケジュール

	下見①	
	5/25(水)	5/26(木)
9:00		
10:00		打ち合わせ
11:00		↓
12:00		
13:00		
14:00	打ち合わせ	会場下見
15:00	↓	
16:00		アウトリーチ先 下見
17:00		
18:00	インリーチ	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	7/19(火)	7/20(水)
		打ち合わせ
	打ち合わせ	
	会場下見	
	アウトリーチ先 下見	
	交流会	

	実施期間						
	9/12(月)	9/13(火)	9/14(水)	9/15(木)	9/16(金)	9/17(土)	9/18(日)
9:00		中島小学校 アウトリーチ①		仕込			
10:00		↓		↓			
11:00		中島小学校 アウトリーチ②	中島小学校 アウトリーチ③			市民参加 ゲネプロ	
12:00		給食交流	給食交流			ダメ出し	アーティスト帰京
13:00			WS 準備	↓	リハーサル	手直し	
14:00		WS 準備	↓	リハーサル	↓	↓	
15:00		↓	↓	↓	↓	公演準備	
16:00	アーティスト来広	↓	↓	↓	↓	公演	
17:00	打ち合わせ	↓	↓			↓	
18:00	↓	公募 WS①	公募 WS②	クリエイション①	クリエイション②	撤収	
19:00		↓	↓	↓	↓	打ち上げ	
20:00		↓	↓	↓	↓		
21:00							
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

JMS アステールプラザに隣接する広島市立中島小学校の3年生全員を対象に、体を動かす面白さ、ダンスによる表現の楽しさを体験してもらうとともに、自己表現能力やコミュニケーション能力の向上を目標として、アウトリーチを実施した。3年生とした理由は、学校側の担当者との協議の中で、4年生以上になるとダンスをすることに対して「恥ずかしい」というような意識が強くなる子どもたちが増えるとの意図から、低学年の最高学年である3年生が相応しいとして、対象学年を決定した。

1時限が45分の小学生にとっては長い90分という時間であっても、すべてのクラスにおいて、ワークショップに集中して取り組んでいた。あるクラスのワークショップでは、見学していた他の先生もワークショップに参加するなど、積極的にダンスに挑戦してみようという雰囲気に包まれた。

担任の先生からは、「普段おとなしい児童が、全く別の表情でいきいきとした表情をみせていたのは興味深かった」との声もあり、ダンスの楽しさを実感できたようだった。

ワークショップ終了後の給食交流によって、さらに子どもたちと打ち解けたところで、公演「KUTSUKUZU」のチラシを配り、講師の2名が出演すると宣伝したことで、子どもたちの興味を強く引くことができ、公演への観覧につなげることができた。

アウトリーチ終了後に学校側と行った振り返りでは、担任の先生から「現在、小学校ではダンスが必修科目となっているが、今回の様にクリエイティブな内容を小学校の先生が教えることはできないので、大変良い機会だった。ワークショップで行った内容が教育指導要領に沿っていたので企画として学校も受け入れ易く、引き続き開催して欲しい」という感想をいただいた。



中島小学校



中島小学校



中島小学校



中島小学校



## ●公募型ワークショップ

参加者の中から公演への出演希望者を募るため、舞台に立った経験のある方を対象とし、ダンスや演劇等で舞台に立ったことのある高校生以上という条件を設定し募集した。応募は高校生や大学生が多く、ダンス歴ではバレエ経験者が多かった。(16名参加、11名公演出演)

ワークショップの内容は、開始から30分程度ストレッチに時間を割き、ダンスに向け体の準備を十分に作ることや、演出に基づいてステップを組み入れるなど、密度の濃いものであった。公演「KUTSUKUZU」に参加する高校生の中には、皆に後れをとるまいとステップの練習を入念に行っていた者もあり、意識の高さが伝わってきた。

ワークショップを見学したバレエ教室の先生から、「生徒にコンテンポラリーダンスを学ばせたいが、広島では教えている先生が少なく、学ぶことができる機会は貴重」との意見をいただいた。



## 関係者向けワークショップ (インリーチ)

5月下旬、アウトリーチ先予定の小学校教職員や公演を担当してもらうテクニカルスタッフを対象に、ワークショップを体験した。ほとんどの参加者はダンス経験が無いこともあり、最初は戸惑っているようにも感じられたが、ワークショップが進むにつれ、体のほぐれと共に、段々と笑顔が見られるようになっていった。

ある参加者の、「最初どのようなことをするのか不安だったが、コンテンポラリーダンスの表現がとても自由で、身近に感じる事ができた」との言葉通り、実際にコンテンポラリーダンスを体験していただくことで、アウトリーチ実施に向けて良いアピールになり、ダンスの楽しみを知ってもらう機会にもなった。



## 地域交流プログラム内容

9月14日(水) 広島市中島小学校 3年3組

### ●自己紹介

緊張した様子で整列していた小学生たちだったが、北尾さんから「わったん」、アシスタントの米田さんから「よねちゃん」と愛称で呼んでもらいたいと自己紹介があった後、フラメンコなど様々なダンスの種類を実演するなどして笑いを誘い、緊張は次第にほぐれていった。ワークショップ終了後も小学生たちから「わったんまたね!」と気軽に声をかけられるなどコミュニケーションが取られていた。

### ●準備体操～ストレッチ

導入として、リラックスした皆の全身をほぐすためのラジオ体操や、四つん這いになって北尾さんを追いかけるなどの準備運動を行う。これがダンスのステップになっていることは後から気付くことになるが、準備体操で小学生たちの気持ちも次第にダンスに向け盛り上がる内容だった。

### ●ハイタッチ!

「ペアになってハイタッチ」→「ジャンプしながらハイタッチ」→「音楽に合わせて動きながらジャンプハイタッチ」と段階を踏んでハイタッチの色々なバリエーションを実践し、ダンスのステップを体験していった。

### ●身体を使って音を出してみる

手と手を合わせて音を出すハイタッチから、全身のあらゆる箇所を使って色々な音を探すという内容に発展した。

中には背中やお腹を使ったり、腕や脚などを叩いて音を出す、あるいは5～6名の複数人でボディタッチをして音を出すなど、自由な発想で楽しそうに取り組んでいた。

### ●ダンスのステップ=公演でも同じステップ

最終段階として、小学生たちがダンスを踊った。本格的なダンスレッスンに小学生たちも真剣な表情で一生懸命ステップを踏んでいた。このステップは、テンポの違いはあるが、公演で発表する市民参加作品の一部と同じものである。1曲通して踊りきった時には、達成感に満ちた笑顔が浮かんでいた。



## 公演

## 『KUTSUKUZU』



公演は、Baobab 東京公演『靴屑の塔』をベースに、ダンサー3名にワークショップ参加者の11名を加えた広島バージョンとして実施することになった。

会場の多目的スタジオは、平土間式の会場で昇降可能な舞台を有している。通常、演劇やダンス公演を行う際には、舞台を設けず、フラットな状態で公演を行なうことがほとんどであるが、北尾さんから「段差を作り、その前面も含めて舞台としたい」と提案があった。リハーサルを観て感じたことだが、これは「靴」をより明確なテーマであることを観客に示し、舞台に立体感を生み出す効果があった。

ワークショップ参加者の11名は、2日間のクリエイションワークショップを通じて公演に臨む。北尾さんは、皆のレベルの高さから予定していたものより高度な振付を要求し、後れを取るまいと、自主練習に励む者などいて、全員が見事なパフォーマンスを披露し、大迫力のステージに仕上がった。

公演に向けての広報は、チラシを中心に行った。バレエ・ダンス・演劇関係団体向けに配布したことに加え、ジャンルを問わず他の各種公演へのはせこみ、既存のコンテンポラリーダンス公演との相乗効果を狙い本公演との共通チケットを発売したが、その効果は十分とは言えず、本番まで楽観できない状況が続いた。最終的にはSNSによる広報やアウトリーチ先の協力などを得て、ほぼ満席とすることができた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・広島の人たちがステージに立つ場を考慮くださり、ありがとうございました。
- ・いつの間にクツがナナメ向いてたんだ？！とビックリしながら楽しめました！
- ・初めてコンテンポラリーダンスを観ました。あっという間に時間が過ぎて楽しかったです。
- ・広島メンバー頑張りました！
- ・体で表現するのって自由だなと思いました。皆ちがう動きをしていて、どこを見るかも自由だから面白かったです。またコンテンポラリーみてみたいと思いました。
- ・表現力や動きがすごかった！！アートですね！！
- ・とてもおもしろかった。くつの可能性を感じた。
- ・最後のシーンがとても印象的できれいでした。
- ・Baobabの本公演をアステールプラザで観たいです！！
- ・広島メンバーの個性がキラキラする舞台でした。一人ひとりの存在（靴も）大切。いいね、と思いました。

●この事業への応募動機

JMS アステールプラザでは、以前からコンテンポラリーダンスとして発表会やプロデュース公演等を取り上げ、継続して実施しているが、これを充実させ、ダンス公演をより多くの方に鑑賞していただくことで、コンテンポラリーダンスのさらなる普及を目指し応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

これまで、招聘していたアーティストとは異なるタイプのアーティストを迎えることで、新たな刺激を与えたいと考えた。また、小学生にワークショップを体験してもらい、体を動かす面白さやダンスによる表現の楽しさを感じてもらい、将来に向けたダンスの普及を目指した。ポイントとしては公演の観客を増やすために、ダンスの経験はないものの、舞台に立った経験がある人を対象にしたワークショップとし、参加者から公演への出演者を募ったことが挙げられる。

全体研修会の段階で、ダンス公演を当館の事業であるダンス発表会「TRY A DANCE」とのカップリング公演とすることで、ワークショップ参加者や公演鑑賞者の増加に繋がると計画したが、これはダン活事業の意図と異なるとの理由により、カップリング公演を断念し、開催時期を合わせての実施とした。

●企画実施にあたり苦勞した点

苦勞した点の一つに、4月の異動で「ダン活」の担当になり、前任者から事業の説明を受けたが、内容についての理解は十分とは言えない状況のまま進めていた。そうした中、アウトリーチ先として予定していた小学校の先生が異動になってしまったことで実施できなくなり、他のアウトリーチ先を探すことになったため、その後の準備に影響がでた。

次に、前述のとおり既存のダンス事業との両立を目標としていたが、両事業の来場者層が被ることになってしまい、なかなか計画通りとはいかなかった。ダン活事業と「TRY A DANCE」の共通チケットを発売したが、販売数は伸びず、最後まで券売に影響した。

3点目に、アーティストが交代となったことで、企画内容やスケジュールを再度見直すことになり、限られた準備時間の中で、公演に向けて急ピッチで準備を進めなければならなかった。なんとかワークショップや公演に繋げることができたが、十分な準備ができなかった。

●事業の成果

第1の成果として、ワークショップに参加した参加者からは、「北尾さんのワークショップをもう一度受けてみたい」「また広島で公演を見せてほしい」といった声や、参加者から「これまで受けたワークショップにはなかった手法等があり、大変勉強になった」のように、舞台に立つ若いダンサーに良い刺激を与えたことが伺える意見があったことから、参加者に対して十分な結果が得られたと考えている。

第2の成果として、ワークショップを経験した小学生たちが公演に訪れ、ワークショップの時とは違う北尾さんや米田さんを目の当たりにした彼らの表情は真剣そのもの。感想の中には「自分もダンスをやってみたい」との意見が多数みられたことは、彼らの将来に良い影響を与えることができ、成果の一つとなった。

●反省点、今後の課題など

最大の反省点として、事業への理解が不十分であったことと、準備の遅れにあった。アウトリーチ先の決定についても先生の異動を考慮し、対応を準備しておくことや、インリーチまでの準備が重要であったと後から気づいたが、このあたりの認識が不足していた。

アーティストの交代は、この事業に関わる関係者間でのコミュニケーション不足など様々な要因があったが、この経験を今後につなげていきたい。

今回の事業により、広島のダンサーと様々なアーティストとの出会いを提供することが「コンテンポラリーダンス事業の充実と普及」という目標達成に繋がるものと感じた。

今後の課題として、「ダン活」で関わったアーティスト、ワークショップ参加者との濃い経験を今後の事業にどう生かし、事業を発展させていけるのか、展望を描くことが課題として挙げられる。

### ●この地域のダン活の特徴

「終わりよければすべてよし」。広島ダン活が終わった時、このことわざが頭をよぎった。同時に「待てよ！」という感慨も深く胸に刺さった。無事好評のうちに終了したという安堵感は否めないが、この事業は、ホール担当者向けの研修事業であり、結果だけではなく、経過についても同等に重要であるはずである。振り返ってみてどうであったのか？

ダン活は、開催地域の環境、主催の諸条件（会場空間、予算など）、担当者、アーティストなどの関係性から一つとして同じ事例はありえない。アーティストによってスタイルが異なるコンテンポラリー・ダンスと似ているかもしれない。

広島は、ダンス事業が活発に行われていると思われているが、実際はダンス人口の数や層に広がりがないようになってきている、特にダンスをやる若者を育てていきたいという目標がある。また、財団主催の事業であっても、ほとんどは民間主導で進行し、財団が企画から実施までやり遂げてきた実績はほとんどない。これらこのことを問題視し、将来的には名実共に財団からの発信を目指す一歩として、ダン活事業に臨まれた。

研修を受けた担当者が異動になり、引き継ぎが行われてはいたとしても、コンテンポラリー・ダンスの事業に初めて携わる新担当者にとって、事業への深い理解、実施に向けての準備は容易なことではなかったかもしれない。まして、実施時期が9月ということもあり、異動早々から時間との闘いとなった。そうした最中、残念ながら幾多のずれが生じてしまい、アーティスト交代という厳しい事態を招いてしまった。それでも、公共として計画された事業を中止にすることはなんとしても避けなければいけないと判断し、心機一転して仕切り直し。担当者たちの意識も前向きになって積極的に頑張られたことや、非常に協力的なアーティストの力を得て、最後まで走り抜くことができた。

公演は市民参加型。直前に東京で上演されたカンパニー新作の改訂版に出演するシーンを盛り込むことになり、限られた日数のなかでのリハーサルは大変であったが、参加者は熱心に本番へ向けて集中していった結果、素晴らしい完成度となった。担当者は皆の頑張りが作品の素晴らしさを肌で感じて、一人でも多くの人に届けたいという思いから広報・宣伝にも力を入れたが、券売は最後まで苦戦を強いられた。

問題の一つとして、ここ数年恒例となっている公募による市民団体のダンスとゲストダンサーによる公演が二日後に行われたことが挙げられる。共通チケットも販売したが、あまり効果を生み出さなかった。限られたダンス人口のなかでの連続開催は、出演を希望するダンサーも集客も割れてしまって、目標のひとつとして掲げていたダンス人口の拡充には繋がらない。そういった点にも留意して年間の事業スケジュールを組み立てることは、今後の課題となるであろう。

アウトリーチは、ホールの隣にある小学校で行われた。まさに、地元交流密着型と言える。実施後の振り返りで、先生から熱意のこもったご意見をいただいた。希望や展開もふくめた内容で、今後のアウトリーチの可能性を実感できた。

### ●課題とこれらに向けて

世界遺産である原爆ドームを訪れる国内外からの観光客、各地から足を運ぶ熱狂的なカーブ女子など多くの人々が行き交う注目度の高い広島。

ダンスに興味を持ち、出演することも鑑賞することも含めダンス事業を求める若者たちは確実に存在している。地元のテクニカルスタッフ（舞台、照明、音響）の仕事もすばらしい。担当者に関しても、今回の事業で、コンテンポラリー・ダンス公演の創り方や素晴らしさを理解されたのではないだろうか。今後のさらなる発展のための条件は揃っている。

今後は、民間との協力が緊張関係を保ちながら、ダンス愛好者の層を広げるための事業企画やネットワークの構築などに関して、熱意を以って自主的に模索し、自らの手で掴んで事業を立ち上げることに挑んでいただきたい。そのための確たる体制、予算の確保なども必要であろう。

ダンス事業の未来に危機感を覚える昨今、全国の公共ホールを牽引するような理想的モデルとして、次世代に向けたダンス発信を大いに願っている。



# スケジュール

	下見①	
	6/10(金)	6/11(土)
9:00		
10:00		関連企画 打ち合わせ
11:00		↓
12:00		
13:00	福岡着	FUCA 見学
14:00	打ち合わせ	打ち合わせ
15:00	イベント会場 見学	↓
16:00		↓
17:00		
18:00	打ち合わせ	福岡発
19:00	関連企画 打ち合わせ	
20:00		
21:00	交流会	
22:00		

	下見②		
	8/5(金)	8/6(土)	8/7(日)
		イベント	
		↓	関連企画 打ち合わせ
福岡着			↓
イベント会場 下見			打ち合わせ
テクニカル 打ち合わせ			↓
↓		↓	↓
		関連企画	福岡発
		↓	
公募 WS			
↓		↓	

※下見②：1日分はダン活枠外

	実施期間						
	10/11(火)	10/12(水)	10/13(木)	10/14(金)	10/15(土)	10/16(日)	10/17(月)
9:00		平尾小学校 アウトリーチ①	平尾小学校 アウトリーチ③	公演準備	公演準備	公演準備	帰途
10:00		平尾小学校 アウトリーチ②	平尾小学校 アウトリーチ④		↓	↓	
11:00					↓	ゲネプロ	
12:00							
13:00	福岡着		公演準備	自主練習	クリエイション WS④	直し	
14:00	打ち合わせ	テクニカル 打ち合わせ		↓	↓		
15:00		↓		↓	↓	公演	
16:00		↓		↓	↓	市民出演者 振り返り	
17:00	インリーチ		自主練習	↓	↓	バラシ	
18:00					通し稽古		
19:00	クリエイション WS①	クリエイション WS②		クリエイション WS③	↓		
20:00	↓	↓	↓	↓	直し		
21:00	↓	↓	↓	↓			
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

当財団では、昨年度より子どもを対象とした複数の事業を「子ども文化芸術魅力発見事業」として統合し、その目的を「アーティストのもつ多様な価値観と子どもが出会うことにより、子どもたちがもつ想像力・創造力を伸ばし、成熟した市民として次世代を担う」こととして新たな出発をはかった。今回の現代ダンス活性化事業で、子どもとプロのアーティストの出会いの場を確保したいと考え、「子ども文化芸術魅力発見事業」としてアウトリーチを実施した。昨年度末から年度初めにかけて実施校を公募し、抽選で実施校を決定した。

【平尾小学校】中央区南端部に位置する小学校。先生からは「アーティストから、実際に体を動かし、面白さやワクワク感を子どもたちに伝えてほしい」との要望があった。4クラス・クラス単位で実施。事前の聞き取りで、恥ずかしがり屋が多いクラス、大人しいクラス、個性的で想像力豊かなクラス、ノリがいいクラスと、クラスごとに雰囲気が大きく異なることがわかった。

冒頭に東野さんと吉川さんがミニパフォーマンスを披露。どのクラスでも子どもたちが一気に笑顔になった。ワークショップ中、東野さんがクラスの雰囲気や児童の様子を見て適宜声掛けをしながら、吉川さんが絶妙なタイミングと場所で踊りを見せることで、ほとんどの子どもが戸惑うことなく徐々にワークショップに集中し、最終的に自らの動きを楽しそうに模索する様子がうかがえた。

振り返りで、「普段は“自由に表現して”と言っても絶対にやらない子が、今回のびのびと踊っていた」と先生が驚いていた。また、WS終了時に、東野さんが「今日みんなとやったように、それぞれの身体と、それぞれの想像力でいつもダンスを作っています。」と率直に子どもたちに伝えたことで、公演鑑賞にも興味が向いたと思う。先生から公演と優待割引の案内を児童にいただき、実際に数件優待チケットのお申込みがあった。



平尾小学校



平尾小学校



平尾小学校



平尾小学校



## ●公募型ワークショップ

誰でも参加できるワークショップを、公演出演者の選考も兼ねて行った。募集の結果、ダンスのプロからダンス未経験者まで、年齢も11歳から57歳までと多様な面が集まった。ダンス経験の差があってもかかわらず、ストレッチから始まったことで、参加者全員が抵抗なく、等しく真剣に取り組んでいる様子が印象的だった。

ストレッチ、少し動いてみる、徐々にその動きをダンスに変えていく、自分でイメージを想像して動く、とテンポ良く展開していく中で、参加者一人ひとりが考えていることが身体を通してこちらに伝わってくるようだった。ワークショップ開始前に出演希望を出すかどうか迷っていた人たち全員が、ワークショップ終了後に希望すると申し込んでいた。ワークショップを体験したことで、もっとやりたい気持ちになってくれたようだった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

コンテンポラリーダンスを言葉で説明するのではなく、体験することで、保護者や児童に対して自分の言葉で説明してもらえるよう、アウトリーチ先の教員を対象にインリーチを行った。学校でのワークショップは、担当の先生の熱意と理解が、子どもたちに大きく影響するからだ。また、先生方の横のつながりからコンテンポラリーダンスへの関心が広まることを期待し、他学年の先生にもお声がけしたが、学校行事の準備等で1名しか参加者が集まらなかったことは残念であった。

当初1回目の下見（6月）でインリーチ実施を計画していたが、アーティスト都合により、10月ダン活週初日での実施となった。ダン活週では学校との調整も厳しく、インリーチ後の打合に十分な時間をとることができなかったことは少し残念であった。



## 地域交流プログラム内容

### 8月5日（金） 公募型ワークショップ(どなたでも)

公演への出演者選考も兼ねて、公募型ワークショップを実施。11～57歳までの36名が参加した。

#### ●ストレッチ、二人組みでストレッチ

ストレッチから始まることで、公演のオーディションも兼ねたWSであることを参加者に意識させずに始めることができたと思う。ストレッチということで、見学に来た財団職員も抵抗なく参加していた。

次に、二人組みでストレッチ。皆協力しながら、楽しそうにやっていた。その後再度一人でストレッチすることで、自分の身体を意識し、自覚的に身体を動かしているように見えた。

#### ●東野さんの動きをまねてみる

ストレッチを兼ねて、東野さんの動きをまねる。

#### ●歩いてみる～踊る

「足音させずにお腹で歩く」「後ろに目があると思って後ろ向きに歩く」など基本的な動きからスタートし、徐々に音楽にあわせて全身で動くところまで。自分の身体を意識して踊ることへの導入。

#### ●東野さんのダンスをまねる

東野さんによる振り写し。動きの一つ一つに言葉やイメージを与えて説明することで、振りが覚えやすく、かつ動きを具体的にイメージできたようだった。東野さんの「もっと大きく、はっきり動く」の声掛けで参加者の動きがどんどん変わっていく様子が見ていて見事だった。

#### ●自由に動くためにイメージする

身体の中を動くボール・三角・定規をイメージして動いてみる。頭も使ってボール（や三角や定規）を自分でコントロールして、どんなルートで行くか自分で考えて身体を動かす。繰り返しやってみることで、重さ（重い～軽い）と質感を身体で表現することに慣れていった様子。

#### ●人形つかい

二人組みになり、ペアの相手の体のパーツを動かす。相手の身体を使って表現の面白さを見つけていく。

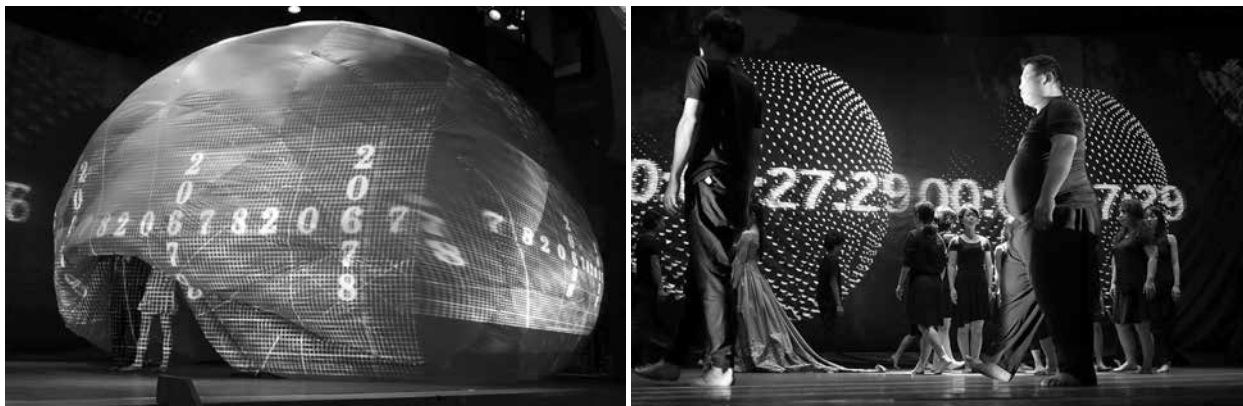
#### ●自分でテーマを決めて動く

WS開始時とは別人のように、WS参加者が音楽に合わせて、それぞれが自由に表現していた。



## 公演

## ANTIBODIES Collective ダンスパフォーマンス『DUGONG』福岡公演



2015年に横浜と京都で上演された『DUGONG』を、WS オーディションで選ばれた出演者 20 名とともにリクリエイションし、『DUGONG』福岡公演として上演した。選ばれた出演者に意識を高く持ってもらい、外部にもプロのアーティストの作品であると認識してもらうために、チラシ等では“市民出演者”という言葉は一切使わないことにした。

出演者は、東野さん、アシスタントの吉川さんのほかカンパニーダンサー4名、音楽のカジワラさん、オーディション出演者 20 名の大所帯。ANTIBODIES Collective の美術・映像・特殊映像・演奏などのメンバーも集結し、大規模な公演となった。『DUGONG』は回遊型で時間をテーマにした作品。終焉に向かってカウントダウンしていき、儚さを表現する。出演者はチームを組み、カウンターに沿って、与えられた場所でパフォーマンスを行う。クリエイションでは、東野さんに与えられたテーマにそって、出演者それぞれがどう表現するかを話し合って決め、出てきたアイデアを東野さんがすり合わせて全体を組んでいく形で進んでいった。自らが考え表現したためか、出演者全員が堂々と確信を持ってパフォーマンスしていたことで、観客の気持ちを盛り上げていったように感じた。本番は、出演者と観客と『DUGONG』という作品をシェアしているような印象を受けたことが良かったと思う。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・最高！面白かった。楽しかった。驚いた。出演者と一緒にパフォーマンスに絡み良かったな。
- ・入場から、どんどんと世界へ引き込まれて、すっかりと空想に入り込めたのがすばらしかった。又ぜひ福岡へ来てほしいです。
- ・難しかったけど、かっこよかったです。訳が分からなくて面白かった。
- ・会場に入って 10 分くらいは、すぐに帰りたくてたまらなかったけれど、最後には感動していました。見られて本当によかったです。
- ・初めてこのようなダンスパフォーマンスを見ました。とにかくすごい!!の一言です。ダンサー一つ一つ、一人一人にとっても感動しました。
- ・観客の動きが作品に取り入れられていて、面白かった。舞台が刻々と変化していくのも面白かった。出演者の後ろを歩いてみた。自分が参加している感じがした。音もよかったと思う。この手の音楽は、いつもはうるさく感じるのだけれど、現実的でよかった。構成がすばらしい。
- ・混沌としていましたが、人間の本能的な動きを面白く拝見しました。楽しかったです。
- ・最後に動きが止まった瞬間に、肉体性を強く感じました。
- ・鳥肌が立ち、涙が溢れました。福岡でこのレベルの公演があった事が奇跡です。ありがとうございます。

●この事業への応募動機

福岡市はNPOとの協働でコミュニティダンス事業・ワークショップ・ダンスを活用した事業を長年行ってきたが、ダンス愛好者に広がりがない。また、一つの作品世界を堪能できるダンスカンパニー公演がほぼないのが現状である。鑑賞を中心としたダンスに親しめる環境を複数年かけて整備していく必要があると考えて、新たな展開の第一歩としてダン活に応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

新たなダンス鑑賞者層の開拓を事業のねらいとした。福岡市は政令指定都市の中で若者（15歳～29歳）率1位の都市であることから、美術・映像・音楽など舞台芸術周辺に興味のある若者をメインターゲットとした。

ポイント① 市の外郭団体である特性を生かして、市が管理する通常公開されていない洪水対策施設でイベントを行った。残念ながら雨天中断となってしまったが、新聞社に注目してもらいきっかけとなった。

ポイント② 「ダンサー東野祥子のまちコラボ」と題し、公演会場近くの書店・飲食店・服飾店・写真店にご協力いただき、公演までの1か月半にわたり、それぞれの店舗の特性を生かした関連企画を実施していただいた。

ポイント③ メインターゲットへ情報が確実に届くよう、文化芸術に関心のある若者が多い街（赤坂、薬院、平尾など）に位置する、発信力のある魅力的な個人商店を訪問し、公演を説明してチラシを置いてもらった。チラシは店舗に置きやすいように、三つ折A5サイズと小さめにした。

ポイント④ 高校ダンス部、大学サークル、専門学校など、公演に関心を持ちそうな若者がいる団体を訪問して公演をプレゼンし、優待チケットの案内を行った。

●企画実施にあたり苦労した点

①施設を管理していない財団であるため、会場利用について様々な制限があり、市の担当部署や施設管理側との交渉に手間取った。しかし、その都度企画プレゼンをしたことが、自分の力になったように思う。

②イベントや「まちコラボ」など、関わる部署や人が多く、その調整に手間取った。結果的には、より多くの理解者を作ることとなり、実際に関係者が家族を連れて公演を観に来てくれたことがよかった。

●事業の成果

当初の目的を大きく上回り、公演動員数は282名となった。福岡市のダンス愛好者は130名程度と推定しており、今回新たな鑑賞者層の開拓の第一歩は踏み出せたと思う。また、「まちコラボ」を実施したことで、街の人々の意見を直接聞く貴重な機会にもなった。「今後の財団事業に期待する」「今後も協力したい」というお言葉も頂戴し、今後につながるものを得られたと思う。福岡の街にこうした人たちがいることは、福岡市の大きなポテンシャルを示す一端だと思う。

●反省点、今後の課題など

現場での連絡・進行などの基本的なところが不十分で、結果アーティストに負担をかけてしまった。また、ダンサーの基本が身体であることを配慮したスケジュールを組むべきであった。公演では、直前まで客入れの場所やタイミングが決まらなかったとはいえ、当日運営について様々な可能性を事前に入念にシミュレーションし検討しておくべきだったことも反省点である。また、東野さんにとってはANTIBODIES Collectiveとしては初めての市民参加型公演ということで、多くのカンパニーメンバーに関わってもらったおかげで大規模などともいい公演になったが、アーティストにとっては金銭的負担が大きかったのではないかと。準備の段階で、本当にそれでいいのかどうかを、こちらからアーティストに尋ねることも必要だったと思う。

### ●この地域のダン活の特徴

(公財)福岡市文化芸術振興財団は特定の施設を管理していないことから、実施アーティスト決定後に、候補となる公演会場をいくつか視察して決定した。その結果、舞台、客席、通路、エントランスを含む劇場空間全体でパフォーマンスを行ない、観客は自由に動いて鑑賞するという回遊型の壮大な公演の企画が動き出した。そこには、アーティストの希望をできるだけ取り入れて、一緒に成功を願う担当者の熱い思いが出发点となっている。加えて、いくつかの企画が重層的に立ち上がった。管理施設を有しない財団としては、日常的に地元の人々とコミュニケーションをとるような交流は困難である。そのため、企画趣旨の共通点として、地域との連携というコンセプトが根底にあった。

一つ目は、市が管理する洪水対策施設でのイベント。通常公開されない場所でのパフォーマンスによって、この場所を地元の人に知っていただく機会にもなった。他にも個人的で名高い書店でのアーティストによる選書特集、人気カフェでの公演タイトルに合わせたメニュー、ブティックでのダンス撮影ワークショップなど、多角的に行われた。担当者の丁寧なリサーチや交渉、広報・宣伝に加え、アーティストのファン、知り合いが在住しているという好条件も功を奏した。現実的には、盛りだくさんの企画をこなすのは容易なことではなく、アーティストの負担も想像以上に大きかったが、皆の頑張りでなんとか乗り切ることができた。

さらに、公演にいたっては、アーティストの希望ではあるというものの、ダン活事業としては想像を絶する規模となった。規定枠の予算には到底収まりきれないので、宿泊施設や交通手段などやりくりの工夫がなされた。ダンスの他にも、音楽、映像、美術をはじめとする様々なジャンルのアーティスト集団が総勢二桁を超えて参加、それぞれの役割を果たして、劇場はみるみるうちに別世界へと化していった。

財団や市の職員もとても協力的であったし、市民参加型として本番に出演する参加者達も連日の稽古や自主練にも積極的に参加するなど一生懸命な様子が伺われた。

券売は、直前になっても日々増え続け、最終的には当初の予定をはるかに超える300人近くに達した。観客は、初めて目の当たりにする不可思議な世界に驚きの声、楽しい笑いと共に素晴らしいダンスへの感動を味わえたのではないだろうか。

今回の事業は、「ダン活事業」としては、かなり特異と言える。前述したように、イベントなど多くの前企画と公演、予算の規模や関わる人の数などから考えれば、他の全てのホールに対しての参考事例とは言えない。財団は、本事業を単発として捉えずに、年間の他の事業、例えばアウトリーチは次世代の子どもへの育成事業の予算から捻出するなど、組み合わせて実施したようであるが、そういう手段が可能であれば、それは参考になるかもしれない。ただし、すべての企画が円滑に進行したわけではないことも事実である。

また、夜遅くまで公演準備にかかり、アーティストと宿泊施設も離れていたために、実施期間中に意見交換の場が持てなかったことや打ち上げでの振り返りもできなかったことは、ダン活という事業としては残念であった。

それでも、プロのアーティスト集団の仕事ぶり、それを統括するアーティストの姿勢、責任をもって細やかに制作に当たった担当者の努力には胸を打たれ、「アートの力」を信じることが実感できた。

### ●課題とこれからに向けて

担当者は、これまでに舞台公演の企画・制作の経験が浅く、苦勞される点も少なからずあったと思う。今回の現場経験はとても貴重で、今後に生かせると期待できる。同時に、やりたいことが山盛りであることは良いことではあるが、アーティストへの負担、全体の事業の枠組みを考えて、引き算をすること、諦める勇気をもつという苦渋の決断も時には必要となることも課題である。

福岡は、ダンス公演やワークショップが盛んではあるが、マンネリ化は避けられず、広がりが少ないという問題を抱えている。商業的な公演とは、そもそも事業の趣旨が違うので、大々的な集客は見込めないかもしれないが、こういった手作りの事業もまた、大都市福岡の大きな財産になることを理解していただき、財団としてのサポートや発信に向け、今回の事業を皮切りにあらたな展開を期待する。

# 飯山市文化交流館なちゅら 実施データ

実施団体	飯山市	
実施ホール	飯山市文化交流館なちゅら	
実施期間	平成 28 年 11 月 14 日(月)～11 月 20 日(日)	
アーティスト等	アーティスト:田村一行 共演者:谷口 舞	アシスタント:岡本彩 テクニカルスタッフ:山本良
コーディネーター	佐東範一	

## ■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

7 月 15 日 (金) 16:30～17:30 ホール関係者・アウトリーチ先職員・文化団体関係者等、13 名、大ホール舞台

## ■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 11 月 14 日 (月) 16:00～17:30 飯山市秋津児童クラブ、1～3 年生、25 名
- ② 11 月 15 日 (火) 8:50～10:25 飯山市立泉台小学校、1・2 年生、30 名
- ③ 11 月 15 日 (火) 10:50～12:25 飯山市立泉台小学校、3・4 年生、27 名
- ④ 11 月 15 日 (火) 16:00～17:30 飯山市戸狩児童センター、1～5 年生、24 名

## 公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 11 月 15 日 (火) 19:00～21:00 中学生以上、500 円、16 名、大ホール舞台
- ② 11 月 16 日 (水) 19:00～21:00 中学生以上、500 円、16 名 大ホール舞台

※2 日間連続/2 日間連続の参加料は 500 円

## 公演(演目、公演日・開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『カラリ手を引く真紅の子』
- 11 月 19 日 (土) 15:00 開演 (14:30 開場)
- 田村一行、岡本彩、谷口舞
- 大人 1,000 円 (当日 1,500 円) 高校生以下 500 円 (当日 1,000 円) \*未就学児無料
- 飯山市文化交流館なちゅら 大ホール特設舞台
- 77 名



# スケジュール

	下見①	
	5/15(日)	5/16(月)
9:00		テクニカル 打合わせ
10:00		
11:00	アーティスト着	打ち合わせ
12:00		
13:00	ホール見学	市内見学
14:00	打ち合わせ	↓
15:00		
16:00	市内見学	アウトリーチ 会場下見
17:00		
18:00	交流会	アーティスト発
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②		
	7/15(金)	7/16(土)	7/17(日)
		宣材撮影	打ち合わせ
アーティスト着			
			市内見学 (小菅)
アウトリーチ 会場下見			
インリーチ			
		↓	↓
交流会			アーティスト発

※下見②：1日分はダン活枠外

	実施期間						
	11/14(月)	11/15(火)	11/16(水)	11/17(木)	11/18(金)	11/19(土)	11/20(日)
9:00		泉台小学校 アウトリーチ①			作品参考見学		
10:00		↓	仕込み	仕込み	↓	稽古	アーティスト発
11:00		泉台小学校 アウトリーチ②			↓	↓	
12:00		↓				↓	
13:00	アーティスト着				場当たり②		
14:00	打ち合わせ			宣材撮影	↓		
15:00				↓	↓	公演	
16:00	秋津児童クラブ アウトリーチ	戸狩児童センター アウトリーチ		仕込み	リハーサル	↓	
17:00		↓	↓	↓	↓	バラシ	
18:00						↓	
19:00	仕込み	公募WS①	公募WS②		ゲネプロ	↓	
20:00		↓	↓	場当たり①	↓		
21:00				↓	↓	交流会	
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

飯山市では、小学生をメインターゲットとし、市内の小学校、児童クラブを中心に声かけを行った。児童数の関係もあり、いずれも多学年合同での開催となり、不安もあったが問題なく終えることができた。

##### 【秋津児童クラブ】

放課後を児童クラブで過ごす児童達を対象に行なった。準備体操を経て、身体の力を抜く感覚を意識した動きを皆で行った。その後、映像やスケッチを眺めながら、デュシャン等を例に「こんな表現だってあるんだよ」という話を聞く。子ども達からは鋭い質問も出て白熱した議論(?)が行われた。先生達は、うまく馴染むのが難しい児童がいて心配だったようだが、先生達の事前のケアもあってか皆楽しく参加することができた。

##### 【泉台小学校】

秋津児童クラブに比べると、授業の一貫ということなのか多少緊張しているようであった。短い休憩を挟んでの連続のワークショップであったが、児童の様子から田村氏は3・4年生のプログラムを少し変更したようであった。3・4年生では、途中アニメのキャラクターを真似る児童がおり進行が気になる場面があったが、その後はむしろ逆に自分達の身体の動きにのめり込むような集中を感じた。

##### 【戸狩児童センター】

戸狩地区は日常的にダンスに親しむ児童が多い地域である。また、参加児童の学年に最も幅があった。高学年の児童は少し恥ずかしそうにしていたが、ダンス経験者なのかとてもいい動きをしていた。集中力に欠ける児童が多いことを先生は気にしていたが、田村氏より「そういう子なりの表現ができていたと思う」という言葉を頂いた。



秋津児童クラブ



泉台小学校 (1・2年生)



泉台小学校 (3・4年生)



戸狩児童センター



## ●公募型ワークショップ

【大駱駝艦の“舞踏”を体験しよう！】

文化交流館の自主事業としては、パークッションのワークショップに続いて2回目のワークショップとなった。平日の夜間の開催ということで、市内を中心とした参加になると思われ、集客には多少不安があった。結果としては、アマチュア演劇人、イラストレーター、元高校教諭、元体操競技者、看護師、そして、その友人達とバリエーション豊かな方達が集まってくださった。1日目は、身体の力を抜き動かされる感覚に慣れながら、「キリスト」や「獣」等の幾つかの型を体験した。2日目は、前日をおさらいしながら、より流れを意識したプログラムで行われた。最後は2班に分かれ、とある舞踏作品の冒頭のシーンを交代で踊った。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

約1時間でワークショップ、公演DVDの鑑賞、アウトリーチ受入に関する質疑等を行った。

文化交流館スタッフ、アウトリーチ先である小学校と児童クラブ（センター）の職員、児童クラブの所轄である社会福祉協議会職員、地元でコンテンポラリーダンスの企画を行った経験のある文化団体代表者等が参加した。

一見普通のストレッチから始まり、動くのではなく動かされるという舞踏のエッセンスへと自然と導かれていった。高く飛んだり、決まった振り付けがあったり等、ダンスに対する偏見が崩され、アウトリーチ受入先の職員の方たちの理解も深まったようであった。



撮影 小林直博



撮影 小林直博

## 地域交流プログラム内容

11月15日（火） 泉台小学校 3・4年生

### ●体の筋を伸ばす

田村さんの真似をしながら背中を膨らませ（丸め）たり、背中にピンポン玉を載せたイメージでそのピンポン玉を動かしたり、体の力を抜いてフニャフニャするなどのウォーミングアップで体を温める。熱くなった児童達は上着を脱いで裸足になった。

田村さんの柔らかい関節と体の動き、表現力に児童達は釘づけになっていた。

### ●力を抜く

田村さんが床に仰向けになって体をジャンプして浮かせる運動を見せる。体の使い方次第でこんなこともできるんだということを学ぶ。

床に寝て体が水袋になったつもりで脱力する。2人組になって交互にお互いの足首を持ち揺らしてみる。アシスタントの岡本さんが児童たちの足首を持って揺らしてみたが、ほとんどの児童は上手く体の力が抜けていた。

しゃがむ時は脱力し、立ち上がる時は力を入れる運動を繰り返す。バスケットボール・野球・剣道の型で実演し、スポーツも力が入っていると上手くいかないこと、体のゆよりの必要性を教えられる。

### ●操り人形

頭頂・肩・腕・指先・耳などを糸で吊られるイメージをする。2人組になって自由に相手を操ってみる。体の力を抜き何も考えないで自然に体が動くことが大切とのこと。

### ●異なる世界

大駱駝艦の舞踏のビデオを見て「こういう踊りもあるんだな。」ということを実感。ある美術館にはトイレの模型が作品として置いてあったり、芸術とは自分がどう感じるかということであり様々な形のものがあることを学んだ。

### ●非日常を体験

今度は静の動き。動物の形をとり獣や鳥になって一列に並んで動いたり、老婆になったりした。最初は笑いながらやっていたが、途中からは真剣に型（獣）になりきり皆真剣にやっていた。



## 公演

## 大駱駝艦田村一行舞踏公演『カラリ手を引く真紅の子』



撮影 小林直博



撮影 小林直博

国重要無形文化財である「小菅の柱松行事」を題材とした新作公演である。本番中に宣材撮影を行った小林直博氏による撮影も行った。

老年の男性が幼少期の柱松行事の記憶を回想するという構成の作品であった。冒頭の田村氏による激しい舞いの後、共演者の2名が松子として神事の各場面をモチーフに舞うシーンが続く。神事の知識がなくとも、場面の美しさに引き込まれたと思う。どの場面も神事の純粋な再現ではなく、田村氏の解釈を通して神事の根源に対する問いを喚起されるような公演であった。

舞台については、大ホール前部の座席を撤去し舞台面と高さを合わせて前舞台をつくり、既存のプロセニウムは90度曲げることで、約350席の間口約16m、奥行き約15m（最大）の舞台を制作した。地元企業の協力でお借りしたイントレを2本の柱松に見立てた。

公演終了後には、ゲストに宣材と公演の撮影を行った小林直博氏を招いてアフタートークを行った。小林氏の写真を紹介しながらロケの裏話や滞在中のアウトリーチ、公演の解説、そもそも舞踏とは何か、何故各地で新作を作り続けているのかといった話を行った。松子のお母さん家族も会場におり感想を伺うことができ、アットホームな雰囲気が進められた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・イントレの天板から漏れる光の玉が着物に映ってとても綺麗でした。一行さんのコミカルな所が好きです。
- ・もっと暗いイメージだと思っていましたが、意外と音楽も舞も明るくて楽しかった。
- ・身体の動作に興味を引かれた。舞踏をもっと知りたいと思いました。
- ・音楽が良かった。人を描く素晴らしい舞が光る。アフタートークのお話も楽しかった。司会も上手だった。
- ・実際の松子とリンクするところがあって（分かって）楽しかった。
- ・舞踏のなかでも新鮮さを感じる公演だった。市民の知らない良いものをこれからも企画してほしい。
- ・女の人がとても綺麗でした。最後のお年寄りの姿も印象的でした。人の形ってきれいだなあと思いました。
- ・観るものに考えさせる舞台。限られた空間、時間、歴史性等のなかで人はどこまで自由になりうるか。
- ・セリフのない公演は新鮮でした。新しい世界を発見した感じです。アフタートークも近い所で意見が聞け、地元根付いた公演で素晴らしいと思います。
- ・理解しやすいものばかり見ていたような気がする。この舞踏のような自分に理解しがたいものを見て、感じてみるのも良いと思った。

●この事業への応募動機

飯山市文化交流館なちゅらは、旧施設の建て替えに伴い平成 28 年 1 月に開館した。それまでは、館として自主事業を行っていなかったが、開館を契機に、自主事業として公演だけではなくアウトリーチ等の地域プログラムを展開していくことを方針とした。ただ、実績、経験ともに乏しかったため、ダン活のように経済的な支援だけではなく事業実施に必要なノウハウを指導してもらえる事業は絶好の機会だった。

●事業のねらいと企画のポイント

飯山市は人口 2 万人程の小さな町であるが、隣接市町村や長野市からの集客も見込めるため、地元の舞台芸術に馴染みの薄い方にも鑑賞しやすい作品とするだけでなく、周辺市町村からも集客するだけの話題性をもつ必要があった。以下の 2 点において注力し、地元住民の関心を集めるとともに、市外への発信性を高めようとした。

- ① 国重要無形文化財の「小菅の柱松行事」を題材とした作品の制作
- ② 地元の著名写真家（『フリーペーパー鶴と亀』小林直博氏）を起用した宣材の作成

●企画実施にあたり苦労した点

事業制作経験も乏しく、ホール開館初年度で右も左も分からないなかで、約 1 年という時間をかけてスケジュールを守って作業を進めていくことがとにかく大変であった。また企画の質的な部分をスタッフ間で議論する場がうまく設定できなかった。

●事業の成果

第一に、飯山の地域性と人材を活かした企画を制作したということで、文化交流館の自主事業に対する姿勢を市内外に示せたと思う。第二に、テクニカルスタッフにおいて、普段は貸館事業を中心に簡易な仕込み、オペが中心であるため、この公演で初めて舞台の可変性をフルに活用した舞台作りを行うことができた。第三に、市内外の舞台芸術やアート、子どもへの教育プログラムに関心のある方たちが公演やアウトリーチ等に関わっていただけた。そのなかで、思いがけない繋がりが可視化されたり、新たな繋がりができたりしたことは、今後の糧になると思われる。

最後に、小林氏に撮影いただいた写真が、高知市のダン活公演チラシ等でも使用されることになったことは、小林氏とホールの PR になっただけでなく、外部でも通用するものを制作できたという自信となった。

●反省点、今後の課題など

小菅の柱松行事を見たことがない方でも作品理解がしやすい様に、神事の概要をもう少し丁寧に紹介しておくべきだった。小菅の柱松行事に関する知識の有無で作品の楽しみ方がかなり変わったようであった。

また、イベント最盛期の秋に事業を実施したことは集客の苦勞を招いたばかりではなく、スタッフの疲弊にも繋がった。直近の数ヶ月はホールの稼働率も限界に近く、テクニカルスタッフには相当の負担となったと思う。ホールの閑散期に実施した方が良かったかもしれない。

インパクトのあるポスターのおかげで、公演自体は認知されていたが、舞踏、白塗りということで少し敬遠していた市民が多かったように思う。田村氏の人柄や、作品のコミカルな部分にもっと焦点を当てていき、そうした敷居を下げていければ、より多くの集客に繋がったと思う。

**●この地域のダン活の特徴**

北陸新幹線飯山駅から徒歩10分足らずという素晴らしい立地に創られた飯山市文化交流館「なちゅら」。世界的に著名な建築家・隈研吾氏の設計による大変特徴的な建物に驚く。ホールの内外部も、地元のカラマツやヒノキを使用し、すべて木に包まれ暖かい空気感が漂っている。案内板のひとつひとつが丁寧にデザインされていて、大ホールの内外部も様々な催しものに対応できるように、客席の仕組みなど良く考えられているオープンしたてのこのホールでのダン活であった。

担当は、大村一仁さん。開設に向けての準備からずっと関わっているまちを知り尽くしている人である。初めて訪れた際の打ち合わせで、机の上にさりげなく置かれた「フリーペーパー鶴と亀」というミニコミ誌的な写真集。外部から来た我々が、「これはなんですか？」と質問するまで触れられず、その質問をきっかけに、堰を切ったように、大村さんのアイデアが次々に話された。その「フリーペーパー鶴と亀」の写真家は、小林直博氏。飯山出身で大学から東京に住んでいたが、地元の高齢者の姿に惹かれ、地元に戻り、まったくの自力でミニコミ写真集「フリーペーパー鶴と亀」を出版したところ、全国のテレビでも取り上げられるほどの話題になり、のちのち一緒にどこかに行くと、必ず「鶴と亀」の小林さんですか？と声をかけられるぐらい地元の有名人？である。飯山市でのダン活は、アーティスト田村一行さんとこの小林氏との出会いがとても大きく素敵であった。

1回目の下見の際に、田村さんが地元の祭りや芸能をもとに、飯山で行う公演を創作したいということで、地元の博物館を訪れた。そこで出会ったのが、「小菅の柱松行事」であった。柱松の話を知ると大変面白く、2回目の下見を柱松に合わせて行うことになった。それならば、その時に、公演のポスターを小林氏に撮影してもらったらよいのでは。それならば数か所で撮影しようと、とんとん拍子で話が進んできた。これまでのダン活で、音楽家や照明家とコラボレーションすることはあったが、地元の写真家にポスター用に野外ロケまで行って撮影するのは、初めてのことでないだろうか。

2回目の下見は、とても充実した2日間+1日柱松の行事の見学であった。小菅の山道での撮影、小林氏のおばあちゃんと友達との撮影、ひとつひとつの場所が素敵で、撮影がおわってすぐに、これは選ぶのが難しいから、何種類ものポスターが創れないかと思うほど、素晴らしい写真であった。

私はこれまで縁がなく、今回初めて田村さんのダン活にコーディネーターとして参加した。舞踏というのが、どのように受け入れられるのか大変興味があった。アウトリーチで児童館や小学校の子供たちへのワークショップでは、子供たちが生き生きと牛になったり四つん這いの獣になったり、とても楽しそうに、そして集中して行っている。一般向けのワークショップでは、会ってすぐだというのに、参加者たちが、まるで「田村一行舞踏団」のメンバーのように、田村さんのひとつひとつの動きと言葉を逃すまいぞと高い集中力と真剣さであった。

**●課題とこれからに向けて**

田村さんのからっとしたキャラクターも大きいですが、舞踏というある意味アンダーグラウンドから生まれたものが、このように一般の子供たちから大人までが、のめりこんでいる姿に感動した。ぜひ田村さんに継続して飯山市に通ってもらって、「なちゅら舞踏団」を設立してほしいと思った。それぐらい地域との関わり、そして人との関わりが、とても深い飯山市でのダン活であった。今後はぜひ期待しています。皆様お疲れ様でした！！



# スケジュール

北海道岩見沢市／まなみーる 岩見沢市民会館・文化センター

	下見①	
	5/11(水)	5/12(木)
9:00		市内見学
10:00		
11:00		打ち合わせ
12:00		
13:00		教育大学下見
14:00	岩見沢着	志文小学校下見
15:00	会場下見	
16:00	南小学校下見	帰途
17:00	打ち合わせ	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	10/13(木)	10/14(金)
		打ち合わせ
		テクニカル 打ち合わせ
		会場下見
	岩見沢着	打ち合わせ
	打ち合わせ	
	FM ラジオ収録	帰途
	インリーチ	
	取材対応	
	交流会	

	実施期間						
	11/15(火)	11/16(水)	11/17(木)	11/18(金)	11/19(土)	11/20(日)	11/21(月)
9:00		志文小学校 アウトリーチ①		仕込み			帰途
10:00		志文小学校 アウトリーチ②	南小学校 アウトリーチ①		通し	ゲネプロ	
11:00							
12:00			給食交流	共演者合流			
13:00			南小学校 アウトリーチ②	公演準備			
14:00		教育大学 アウトリーチ			クリエーション④	開場	
15:00	岩見沢着	↓				公演	
16:00	打ち合わせ	↓					
17:00	↓					バラシ	
18:00						出演者交流会	
19:00	公募WS	クリエーション①	クリエーション②	クリエーション③		打ち上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓			
21:00		↓	↓	↓			
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

【岩見沢市立志文小学校】どの分野にも限らず外部講師を積極的に受け入れる校風もあり、教育委員会を通じて実施を依頼した。ハイタッチでは、児童同士のみならず、見学しているスタッフにまで自らハイタッチをしに来てくれる場面もあり、とても無邪気で素直な印象を持った。終了直後には、お手紙を書いて体育館まで渡しに来てくれるなど、その想いや勇気に心打たれる瞬間にも立ち会うことが出来た。先生からは、表現運動等の指導や学校生活全般において相手の身体を労るような指導の参考になったこと、普段交流が少ない児童同士も自然と身体を触り合っていたなどの感想をいただいた。

【北海道教育大学岩見沢校】近い将来、教員や指導者の立場になる学生を念頭に選定したが、芸術やスポーツのマネジメントを学ぶ学生が対象となった。しかし、結果的に事業のシステムを含めたアウトリーチができ、大変良かった。恥ずかしがる学生もいたが、全体としては明るい雰囲気、事業の話聞く際には相づちを打ちながら熱心に、ワークでは身体の動きを楽しみながら取り組んでいた。実際に事業を体験することで、学生たちにとって貴重で、かつ今後活かされる経験となったことを切に願う。

【岩見沢市立南小学校】校長会にて事業提案をし、応募していただいた。ハイタッチやストレッチ、動植物や日常動作の表現などをした。担任の先生達が熱心でインリーチにも参加して下さったこともあり、児童の期待感は十二分にあると感じ、ワーク中もケアが必要な児童を含めそれぞれが自分の表現をして楽しんでいたように思う。先生からは通常のダンスには無い魅力を感じたこと、学校生活におけるグループに関係無く参加していて良かったこと、生き生きとしていて発想が豊かで驚いた、などの感想をいただいた。



志文小学校



北海道教育大学



南小学校



南小学校



## ●公募型ワークショップ

市民の方にコンテンポラリーダンスの魅力や楽しさを体験していただきたいこと、そして、これまでに関わりの少なかった層や貸館利用されているダンスサークルとの交流を深めてより良い関係性の構築にも繋げたいと考え実施した。参加者はダンス経験の有無は関係なく、ほとんど女性の方で、9歳から55歳と幅広い年齢だった。ハイタッチやストレッチをした後、日常生活の中にあるダンスの種を繋げ、朝の風景をストーリー仕立てにしたダンスで思い思いの表現をした。最後に、リズムを加えて洗面台盆踊りを行った。始めは硬さや恥ずかしさが表情に出ていたが、すぐに参加者同士が打ち解けて笑顔が溢れる時間となり、通常のダンスとは違う味わい・身体感覚を感じてくれたように思う。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先の先生、新聞記者、法人関係者、ホールスタッフが参加した。アウトリーチ先の先生には生徒たちへの働きかけとして、新聞記者には紙面掲載へ、ホールスタッフには事業への共通理解とチケット販促に繋がってもらいたい狙いがあった。アウトリーチ先のうち1校は学校行事の関係により不参加となり残念だったが、参加された小学校の先生には「絶対子供達が喜ぶし、早く体験させてあげたい」との感想をもらい、さらに交流会参加・公演来場など、インリーチに参加したことで、とても熱心に関わっていただけたと思う。スタッフにとっては、コンテンポラリーダンスとはどのようなダンスかをお客様に説明することが難しい状況が続いていたが、経験したことで具体的な表現をもって伝えることが出来るようになった。



## 地域交流プログラム内容

11月16日（水） 北海道教育大学岩見沢校

### ●事業概要説明

メセナとファンドレイジングを学ぶ授業内での実施ということで、ホール担当者から地元 NPO 団体としてどのような経緯でダン活に応募したか、地域創造担当者から地域創造とはどのような組織かを説明し、ダン活がどのような事業であるのか、どのようにして今回のアウトリーチを受けているかを理解してもらった。次に北尾さんからアーティストがホール担当者に対してどのようなプレゼンテーションをするかという説明と、北尾さんとアシスタントの米田さんの自己紹介をした。

### ●デモンストレーション

日常動作をモチーフとしたダンスのデモンストレーション行い、コンテンポラリーダンスとはどんなダンスか、北尾さんの活動状況を説明した。

### ●対象によって異なるプログラムの体験

北尾さんが普段どのようなアウトリーチを実施しているか知ってもらうため、小学1年生が対象の場合を想定し、学生に体験してもらった。ワカメになる、自分の身体を叩く、ペアで背中を叩く等を行った。次に大人の方が対象の時のプログラムを実施した。カウントに合わせてハイタッチ、ペアで握手をしたまま体勢を変える、背中を押し合って立ち上がるなどコミュニケーションを図りながら身体を動かした。

### ●ストレッチ

ストレッチをすると各部位にどのような効果があるかを聞きながら、入念に身体をほぐした。

### ●日常動作をモチーフとしたダンス

窓を開ける、部屋を移動するなどの朝の動きや、身体全体を使って自分の名前を書く、などの動きを取り入れ、それぞれの表現でダンスをした。

### ●総括

担当の先生から、様々なレベルの人が事業を作っており、そこに大学が関わっていること、学生もそういった職業に就くことができること、北尾さんのプレゼンテーション力・人を動かす力を学び・感じ取ってほしいこと、などと総括していただいた。



## 公演

## 『Heat to STEP』



Baobab ツアー『靴屑の塔』を岩見沢のためにアレンジした作品を上演し、東京から足音とともにアーティストが岩見沢にやって来て、市民とともに新しい足音（ステップ）を鳴らす、というコンセプトのもと、【靴】と【靴と一緒に歩んできた記憶】をモチーフに創作した。市民参加者を募り、意欲に満ち溢れた9名のダンサーが揃い、短いクリエーションの中、熱心に練習を重ねた。市民ダンサーの頑張りはもちろん、アーティストの親身な導きのお陰で、岩見沢では見ることはできない素晴らしいクオリティの作品となった。公演に向けて不安を抱える市民参加者の中から「北尾さん達アーティストやスタッフに何を言っても『大丈夫、出来ますよ』しか言ってもらえない」との声があがり、苦笑いする場面もあったが、結果的に本当に“大丈夫”で、見事なダンスを披露してくれたことには感謝の念が尽きない。アーティストの圧巻のダンスに、北尾さんが演出された音楽・照明・台詞の要素が加わると、またさらに格別のものとなり、息遣い・足音・表情・身体の動き、全てに魅了され、映像では味わえない贅沢な時間となった。公演にはアウトリーチ先の児童やWS参加者にもご来場いただき、アフタートークでは、北尾さんへの花束贈呈や身体の柔軟性を披露してくれるなど、アットホームな雰囲気にも包まれた。広報ではチラシ配布、商店街でのポスター吊り下げ、FMラジオ出演、Facebookの活用、招待券発行等を実施したが、集客に結びつけることに難儀し、課題を残した。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・楽しませて頂きました。コンテンポラリーダンスへの印象が少し変わりました。WS参加してみたかったです。
- ・楽しかったよ。地域への広がり難しそう。
- ・60分間踊り続けるのは大変だったかと思いますが、出演者のみなさんが頑張っていて素敵でした。
- ・身体ってこんなにも語るんですね。靴の話、こちらの思いも重なって、空想出来たりして分かり易かったと思います！まだまだ自分の身体を十分に動かさきれていない皆さんとの「対比」が却って良かったです！
- ・今までのダンスと違ったダンス、大変良かったです。
- ・本当に型の無いダンスで、自由に楽しくダンスを踊っているなと思いました。体を目一杯使って表現していて楽しそうだなと感じた。
- ・心と体の中にあるリズムが踊りたいと云っていました。楽しい時間をありがとうございます。
- ・初めてのジャンルのダンスでどんなものか楽しみに来ました。身体の動き、表現がとても面白く楽しかったです。ありがとうございました。
- ・初めて観ました。観客の心持ちによって見えてくるものが少し違うものになるんだろうと感じました。

●この事業への応募動機

これまでダンスを主体とする事業を展開したことが無いため、事業の幅を広げるとともに、貸館利用されているダンスサークルや、弊社自主事業に関心が低い層との交流、及び将来的な観客や表現者の育成を図りたく応募した。また、アーティストやコーディネーターによる客観的視点から、他市との差異性や地域の特性を活かした効果的な事業展開を提示していただくことで、事業を定着・継続させたいと考えた。さらには、ホールの活動領域を拡げ、社会的役割をスタッフ一同で共通理解を図り、事業の活性化に繋がりたいと思った。

●事業のねらいと企画のポイント

コンテンポラリーダンスに関心を持ち、魅力や楽しさの発見・体験をしてもらいたいと考えた。ダンスのワークショップは初めての開催となるので、これまで関わりが少なかった方や、貸館利用されているダンスサークルに参加していただき、交流を深めてより良い関係性の構築に繋げることに期待した。また、地域交流プログラムでは、参加者が日常生活に戻っても体験したことを思い出すなど、ダンスを身近に感じるような事業にしたいと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

とにかく集客に繋げることが難しかった。どのようにしてアプローチをすると良いのか、最後まで分からなかったのも、今後も模索したい。ただ、コンテンポラリーダンスの説明の仕方に工夫が必要とされる一方、実際に見てみないと分からない部分もあったので、映像による広報宣伝は実施したが、もう少し力を入れて長期間取り組むと良かった。また、ワークショップ及び公演に向けたクリエイションを全て舞台上にて参加者に経験してもらいたい、という思いから実際の公演会場で実施したが、その分仕込みの時間が制限され、アーティストの皆さんやテクニカルスタッフに負担をかけてしまった。打ち合わせの段階で、仕込みに関する双方の意見や見解を聞き取り、すり合わせた上でスケジュールを組むべきだったと反省する。

●事業の成果

岩見沢には芸術・スポーツマネジメント学科を擁する大学があり、そこでアウトリーチを実施できたことは、ダン活を鑑賞者や表現者の掘り起こしに繋げるだけでなく、その間を担う“芸術を伝える側”にもアプローチでき、新たなアウトリーチの形としてとても良かった。また、全てのプログラムにおいて参加者・来場者から好意的な意見をいただいた。地域での広がりには難しいとのご意見がある一方、ワークショップに参加したかったことや事業の継続を望む声をいただいたので、自主事業の幅を広げる一歩を踏み出せたと思う。また、ダンスを軸とした新たな出会いがたくさんあり、ダン活を実施したことで得るものが大きかった。

●反省点、今後の課題など

研修では、ダンスに関わりの無い人にどう関心を持ってもらうかが大切だと教えていただいたが、実際には参加者を募り集客しなければならず、どうすると良いかとても悩んだ。しかし、コーディネーターの花光さんより「まずはダンス関係者からアプローチしていかないとなかなか広がらない」とアドバイスしていただき、スタートを切ることができた。北尾さんを始めアーティスト・関係者の皆さんに蒔いていただいたダンスの種をいかに育てるかが、今後の使命であり、一過性にする事なく、事業の定着・継続を図れるよう、今回のダン活で得たものを活かしたい。

**●この地域のダン活の特徴**

まなみーるのロビーにはランチタイムなど賑わうレストランがあり、公演のない日でも人の出入りが多く開放的な雰囲気を醸し出している。ダン活が実施されたのは雪が降り積もる11月半ば。まなみーるは北海道の寒冷地で人々がほっと憩える温かな場を提供しているように感じられた。

会館を運営しているのは、指定管理のNPO法人はまなすアート&ミュージック・プロダクションだ。技術スタッフも含め若くやる気のある職員が集まり、彼らの仲の良さやチームワークの良さに何より好感が持てた。なぜならダン活の現場では、技術部と制作部が対立していたり、上司の理解を得られず担当者一人が孤軍奮闘している姿をよく見かけるからだ。そうしたホールでは担当者が変わればせっかくのダン活の成果も一過性で終わってしまう。事業の継続を考えた時に、その事業へのスタッフ全員のコンセンサスが取れているか、全員がやる気になっているかが実はとても重要なのだ。その点このまなみーるでは、全員が一つのチームと感じられる稀有な例のように思えた。岩見沢に滞在した連日連夜、職員の誰か彼かが私たちが地元の店に案内してくれ遅い夕食を共にした。ダン活のことやダンスのこと、地元のことなどを呑みながら語り合い、日増しにアーティスト北尾亘を中心にダン活への思いを共有していった。ダンサーたちもこのホールの応援団を心強く感じていただろうと思う。

そうした中でWSに参加しダンスに魅せられた職員の一人が、市民参加作品に自分も出たいと名乗り出た。しかし市民参加といえども、ダンスは東京公演でプロのダンサーが踊ったものと同じ振り。しかも彼はズブの素人！彼は会館の仕事を平常通りこなし、夜はみっちりリハーサル、帰宅してからも寝ずの稽古に励んでとうとう舞台に立った。仕事と舞台の掛け持ちを許し青年の夢を実現させた上司も太っ腹だし、彼を支えて協力した周りの同僚も優しかった。だが打ち上げでは血気溢れてその青年と上司が真夜中の路上で泣きながらの乱闘騒が勃発するという波乱の展開。私たちはその光景に青春ドラマやなあ〜と呆れながらも、この会館には本当にがんばってもらいたいと思った。

仕事を熱く語り主張をぶつけられる仲間と上司が、会館と地域の在り方を試行錯誤しながら模索していた。その中で生まれたダンスや演劇はきっと市民に届くと期待している。役人仕事ではダンスの楽しさや豊かさを市民に伝えることはできない。ダンスを通して人々が出会ったり、繋がったり…。その触媒となる会館の仕事にまず重要なことは、届けたいと言う真摯な熱意だと思う。その思いがクリエイターの北尾亘に通じて彼を奮い立たせ、地域創造や私も含めた全員を一つのチームにした。そのことが何より素晴らしい。

**●課題とこれからに向けて**

担当者は会館の取り組みが市民に届いているのか、ダンスが有効なのか？集客が難しい中、さまざまな葛藤に直面していた。こうした事業では結果がすぐ出るわけではない。少しずつ種を蒔き、育てていく根気と継続性が必要だと思う。

岩見沢の北海道教育大学には全国でも珍しい芸術・スポーツマネジメント学科があり、地域文化振興やファンドレイズの著書もある柴田尚氏が教鞭を取っている。ダン活担当だった吉田さんは教育大の卒業生で、会館では大学からの実習生も受け入れている。今回はアウトリーチでその学科を訪ね、WSの前に吉田さんがこの事業の経緯をアートマネジメントの視点から説明した。学生にとっても会館職員の先輩から現場の生の声が聞けてとても参考になったと思う。今後はもっと交流の機会を作り、この学科のゼミなどと積極的に連携し、会館の活用や企画提案など一緒にまちづくりを考えていくことを提案したい。学生の若い機動力やアイデアをどんどん活用することによって、若者の観客育成にも繋げていけるだろうと思う。



# スケジュール

	下見①	
	8/30(火)	8/31(水)
9:00		チラシ写真撮影
10:00		↓
11:00		↓
12:00	島根着	昼食・移動
13:00	会場下見 打合せ	大野小学校下見
14:00	↓	中心市街地情 報交換会挨拶
15:00	視覚障がい者 打合せ	事業打合せ
16:00	広報打合せ	↓
17:00	↓	↓
18:00	インリーチ①	島根発
19:00	↓	
20:00	インリーチ②	
21:00	交流会	
22:00		

	下見②	
	12/19(月)	12/20(火)
		県立大学 打合せ
	島根着	昼食・移動
	事業打合せ	打合せ
	↓	↓
	母衣小学校下見	
	テクニカル 打合せ	↓
	↓	島根発
	公募WS①	

	実施期間						
	1/17(火)	1/18(水)	1/19(木)	1/20(金)	1/21(土)	1/22(日)	1/23(月)
9:00		移動	移動	舞台稽古	舞台稽古	舞台稽古	
10:00		県立大学 アウトリーチ	大野小学校 アウトリーチ①	↓	↓	↓	帰途
11:00		↓		↓	↓	↓	
12:00	島根着	↓	給食交流	昼食	昼食	最終確認	
13:00	打合せ	昼食・移動	大野小学校 アウトリーチ②	照明合わせ等	舞台稽古	↓	
14:00	音響確認	母衣小学校 アウトリーチ	移動		↓	開場	
15:00	会場確認	移動			↓	公演	
16:00	↓	舞台稽古	舞台稽古		創作WS④		
17:00	視覚障がい者 WS レクチャー	↓	↓	↓	↓	バラシ	
18:00	視覚障がい者 WS	↓	照明チェック	↓	ゲネプロ	参加者打上げ	
19:00	↓	創作WS①	創作WS②	創作WS③	手直し		
20:00	振り返り	↓	↓	↓	ゲネプロ	全体打上げ	
21:00							
22:00							

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

今回のアウトリーチでは、身体表現というジャンルをきっかけに今後ホールと連携を構築し、活かしていける相手を念頭において次の三者と調整を行った。

①これまで島根県民会館と協働したアウトリーチを実施しており、さらなる連携深化を図れる学校（小・中学校）

②特に文化芸術分野において今後相互に連携の必要性がある地元の教育研究機関（大学）

③普段ホールに来場しづらいからこそ連携し、アウトリーチを行う意義のある団体（特別支援学級）

①【松江市立大野小学校】これまで会館の実施するアウトリーチを受け入れており、体験活動が活発な全校児童 54 名の小学校で実施。管理職の理解も深く、初めてご一緒した担当の先生もインリーチに参加され、各学年の担任の先生方も積極的にアウトリーチに参加していただいた。児童の集中力も高く、輪に入りづらい児童もいたが田畑さんがその都度状況を見て声をかけてくださり、徐々に気持ちがほぐれていく様子もうかがうことができた。

②【島根県立大学短期大学部 保育学科】将来子どもと接する職業に就く学生に、まずは自分たちが体を動かす楽しさを知ってもらうことを目的として実施。県立大学学生へのアウトリーチは初めての試みであり、小・中学校等は異なる単位や資格の視点からも実施の目的を明確にして調整を行うべきだったという反省点は残るが、これからの可能性を両者で探っていく良いきっかけとなったといえる。

③【松江市立母衣小学校 特別支援学級児童】普段思い切り身体を動かす機会が少ないこと、また親子で体を使ったコミュニケーションを図る機会を作りたいという学校の希望もあり、保護者も交えての実施となった。体力を考慮し 45 分という短い時間ではあったが、身体の個性を生かした動きを引き出す田畑さんの進め方に児童、保護者、教員から笑顔がこぼれていたことが何よりこのアウトリーチの成果だと感じた。同時にそれは普段身体を動かさづらいということの裏返しであるようにも感じられ、次への取り組みの道筋が見えるアウトリーチとなった。



島根県立大学短期大学部



大野小学校



大野小学校



母衣小学校



## ●公募型ワークショップ

①お試しワークショップ／本番時に公募による創作ワークショップ及び作品発表を計画していたため、そのお試しワークショップとして開催。参加者数は小学生以上の12名。多くはダンス未経験者だったが、コミュニティダンス団体主宰者なども参加され、この機会を通じて本番時の創作ワークショップに関心を持ち、その日のうちに申し込む方も多数あった。

②視覚障がい者向けダンスワークショップ／前年度に「障害者差別解消法」施行における公共施設のバリアフリー研修を行っており、そこに視覚障がいの方々が参加されていた流れから具体的な取り組みとしてワークショップを提案した。ただ、実際にはバリアフリーや社会貢献ということよりも、彼ら自身の運動やダンスに対する欲求を感じており、田畑さんとの出会いで解放され、いつか彼らのダンス作品が実際に観られるかもしれないという感覚があったことが大きい。実施にあたっては当事者団体のリーダー達と協議を重ね、田畑さんを交えての打ち合わせ、リーダー向けのインリーチを経て本番を行った。インリーチを行ったことで、「自分たちが思い切り身体を動かせるの？」という不安を払拭できたのは大きく、本番に向けてそれぞれ自信を持って周囲への参加の呼びかけをしてくれた。本番当日は当事者11名を含む計31名の参加があり、次回への期待感が高まるものとなった。この期待感もひとえに田畑さんの熱意と誠実に向き合う姿勢のおかげであり、今後はそれを良い形で次につなげていきたいと考える。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

①ホール関係者、アウトリーチ先関係者向けインリーチ／事業やジャンルへの理解を深めるためにまずはホール職員に積極的な参加を促した。課を超えて参加があり、田畑さんの人柄と体を動かす楽しさを知ったことで、本番終了まで事業に対して協力を得られたことが大変ありがたかった。また、アウトリーチ先の先生も積極的に参加され、実際に体験することで理解者が増えたためインリーチの重要性を改めて認識できた。

②視覚障がい者ワークショップに向けた関係者インリーチ／本番への呼びかけと内容確認のため視覚障がい者団体のリーダーに向けたインリーチとして実施。盲学校教員やホール職員、福祉団体からも参加があり、誰もが手探りであったため今振り返ると今回の事業の中で特に必要性の高いものだったと実感している。



1月17日（火） 視覚障がい者ワークショップ

●ウォーミングアップ

安全にワークショップをおこなうため、まず部屋の広さを測る。壁から壁まで横断したあと、ペアになり壁に手をあて、ボランティアスタッフが誘導しながら時計回りで歩く。その後、輪になって座り、片足を隣の人に預けて足のマッサージをする。背中をさすり、叩き、肩を揉み、ストレッチをして身体をほぐす。

●イメージを身体で表す

「10、50、70、0!」。アーティストが指示する数を身体で表す。大きな数には手を広げ背伸びをし、小さな数には膝を曲げたり寝転んだりしてみる。視覚障がいの方が他の人の動きを想像できるよう、アーティストが言葉で細かく説明する。数を表現した後は、抽象的なイメージを身体で表すことに挑戦。「宋道湖に浮かぶ一本足の彫像!」という指示を自分なりに大きく身体を使って表現する。

●(ペアワーク)指先を合わせて踊る

ペアになり自分と相手の人差し指を合わせ、片方がリーダーとなって自由に動く。相手は指先の感覚だけを頼りに、誘導されるまま身体を動かす。→交代

次はリーダーを決めず、互いが誘導し合いながら自由に動く。言葉を使わず身体の動きのみに集中しながら、相手と対話する。

●(ペアワーク)身体の色々な部位を合わせて踊る

ペアを替え、互いの小指や親指、肩肘を合わせて離さないようにし自由に動く。股の下や相手の腕をくぐったりし、アーティストが音楽を止めると、その姿勢のままストップする。お互いの動きに合わせて身体を動かすなかで、図らずもできた面白い姿勢を楽しむ。

●(ペアワーク)ポーズを取り踊る

ペアの一方が思い思いのポーズを取り、それを相手が視覚に頼らず触るだけで想像し真似をする。→交代

一方がマネキンとなり、相手がマネキンの身体を動かしてポーズを作る。→交代

ペアが手を取りあい、互いにポーズを作る側(人間) / される側(マネキン)へと役割を交代しながら動いてみる。身体への対話を楽しむなかでイメージが膨らみ、次第に身体が自由に解放されることが、独創的なダンスに繋がることを理解した。



## 公演

## 田畑真希ダンス公演『待つ間が花』



公演は一般参加者作品発表の第一部『松江夜曲』、田畑さん作品の第二部『待つ間が花』の二部構成で行った。第一部『松江夜曲』には8～60歳までの10名が参加。ダンス経験者は少数だったが、地元のコミュニティダンス主宰の方や演劇、ミュージカル活動をしている方などの参加もあり、それぞれが楽しみながらも今後の自分の活動に活かしたいという熱意が感じられた。また短期間での発表だったが、参加者それぞれが田畑さんの本気さに触発され、高い集中力を保ったまま終えることができた。

第二部の『待つ間が花』は共演者のやぶくみこさんの複数の楽器を用いた生演奏が入った構成になっており、衣装やカラフルな風船を用いた演出など、ダンス公演を初めて観る方もまずは五感で楽しめる内容だった。ダンスも下記アンケートにあるように、ダンサーのしなやかな動き、緊張感、美しさや悲しさが感じられ、物語性を感じる一方、演劇とは異なるその瞬間の身体の儚さや強さに担当者自身も大変刺激を受けた。また、ホールテクニカルスタッフも最大限にその力を発揮してくれたのもありがたかった。照明、音響、舞台それぞれが創造性を働かせ、良い公演にしようとしてくれたのはこの事業のもたらした成果のひとつだと考えている。大勢が参加した打ち上げや翌日の見送りにテクニカルスタッフが駅まで駆けつけてくれたのも田畑さんに触発されて各々が役割を全うし、最後まで一体感を持ち続けてくれたからだと感じている。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・コンテンポラリーダンスを初めて観たのですが、不思議な体験でした。いつもの駅からどこ経由なのかもどこ行きなのかもわからない電車の旅に出て、途中ずっと窓の外を見ていて、いろんな風景が見えるだけで最後までどこにいるのか分からないまま、ちょっときれいな場所に辿り着いた。例えるならそんな体験でした。
- ・奥深く、考えさせられました。自分自身が小学校体育で表現運動を教えています。その極みはこんな表現なのだとほっとさせられました。全身をしなやかに使うすばらしさを学びました。ありがとうございました。
- ・入門編に徹してアフタートークを入れても良いと思いました。内容はとても好きです。この作品を楽しめる文化がまだ観客の側になく感じましたので、ぜひ継続して深めてほしいです。
- ・非日常の自由な表現の世界にひき込まれた1時間半でした。ワークショップ参加者が自由にのびのび表現されていたのが印象的でした。素敵な時間をありがとうございました。
- ・いつか参加したいです。表現する身体、動き、いつ見てもドキドキします。ふとした動きがとても美しく美しく見えました。
- ・もっとダンス公演を観たいです。たくさん企画してください。
- ・一部も大変素晴らしかったです。二部は踊りはもちろんですが、音楽もとてもステキでした。

●この事業への応募動機

応募動機は二つあり、ひとつは島根県では神楽をはじめとし、伝統芸能関連の公演や継承が盛んに行われているが、現代的な身体表現に触れる機会は少ないため、新しいジャンルの取り組みとして実施した。もうひとつは、これまで島根県民会館では現代ダンスを含むアウトリーチ事業を行ってきたが、県の財団としてダン活に申請できるようになり、有料公演を含む滞在型の事業で、地域とも交流が図れるこの事業に新しい取り組みとしての可能性を感じたため応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

現代ダンス及び田畑さんというアーティストを通じて、これまでホールとの接点が薄かった方々と繋がるきっかけになるような企画を心掛けた。具体的には、学生を中心とした若者世代、障がい者の方々などに対してアウトリーチやワークショップを行うことで、田畑さんと出会いジャンルへの理解に繋げていくことを念頭においた企画をポイントとした。

●企画実施にあたり苦労した点

一番苦労したのはやはり集客面である。広報物作成～配布以降に具体的な集客先への説明を徹底しなければならなかったというのが大きな課題として残った。

また、今回は視覚障がい者向けワークショップを行ったが、担当者も当事者の方々も可能性は感じつつも手探り状態であったため、打ち合わせやインリーチを行い、内容について田畑さんやコーディネーターの志賀さんに提案してもらいながら、さらに打ち合わせを重ねるという形で進めた。ホール側から参加を促すよりも、当事者自身が参加を呼びかけ、集まりたいと思えるものにするための調整は大変だったが、苦労した分お互いに共有するものが大きく、次につなげていけるものとなった。

●事業の成果

とにかく新たな繋がりを作れたことだと思う。創作ワークショップの参加者、アウトリーチやワークショップ先からもぜひ次の機会を作ってほしいという声が多く上がった。特にワークショップを行った視覚障がい者団体は、当初不安の声も聞かれたが、終わってみると次はもっと多くの方が参加できるように輪を広げていきたいという自発的な動きと、連携深化を望むありがたい意見が相次いでいる。また公演の集客自体は伸び悩んだが、参加者や来場者からは現代ダンスの魅力を知り、次の公演では積極的に広報協力したいという声も聞かれ、まずは当地域における現代ダンスの取り組みの第一歩とすることができたと考えている。

●反省点、今後の課題など

アウトリーチやワークショップで普段ホールに来場しづらい方々との繋がりを作れた反面、公演においては集客のフックとなる部分を強化できていなかったことが課題である。担当者自身が田畑さんや現代ダンスの魅力を伝えられる言葉をしっかりと持ち、関係者への地道な告知とメディアを活用した告知をより具体的に行うべきだったと反省している。事業を終えて現代ダンスに対するニーズや可能性を改めて感じるが多いため、今後はこの経験を無駄にせず、次の機会に活かしていきたい。

### ●この地域のダン活の特徴

ダン活は平成 27 年度より都道府県ならびに政令指定都市からも応募が可能となり、しまね文化振興財団／島根県民会館での実施となった。

島根県は 3 つの地方（昔の国）からなり、東部の出雲、西部の石見、島嶼部の隠岐のそれぞれは方言も気質も文化もかなり異なるらしい。

しまね文化振興財団が管轄するいくつかの施設のうち、ホール機能のある施設は、出雲地方／松江市の島根県民会館と、石見地方／益田市の島根県芸術文化センターグラントワ（石見美術館、いわみ芸術劇場）である。拠点施設における＜鑑賞＞＜育成＞＜創造＞事業にとどまらず、＜県域展開＞事業と呼ばれる、中山間地域に出向き、地域の市町施設や団体、学校などと協働する事業を、二つのホールで実施県域を分担して展開している。

当財団によるコンテンポラリーダンス事業の実績は、過去に海外のモダンバレエや車椅子ダンスカンパニーの公演実績などのほか、平成 24 年より、県域展開事業としての「アーティスト・イン・レジデンスしまね」や市町ホール等と連携しての地域でのワークショップや公演、学校アウトリーチ（文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業））などがあり、山田うん、新井英夫、セレノグラフィカを過去に招聘している。年間 3-40 校ほどで実施する学校アウトリーチにおいても、毎年 1 割程度の学校から表現運動で実施したいという希望があるという。今回のダン活アーティストである田畑真希は、島根県民会館での育成事業＜ステージクリエイター講座＞で、小中学生を対象に発表をともなう創作ワークショップを実施しているが、カンパニー作品の公演は今回が初めてとなる。

さて今回のダン活は以下の通りに行われた。内部関係者向けインリーチと、アウトリーチを予定していた視覚障害者対象の体験版も実施。アウトリーチは、視覚障害者対象、体験活動に積極的に取り組む小学校 2 校（市の特別支援教育の拠点校の支援学級対象、山間部の小規模小学校）、県立短大保育科の学生対象の 4 ヶ所を実施した。公募ワークショップは、一般対象のおためしワークショップを経て、4 日間の創作ワークショップを実施。公演はカンパニー作品と市民参加作品の 2 本立て。松江市における県民会館主催の国内コンテンポラリーダンスカンパニーの公演は初めてのこととなった。市民に新しいジャンルの表現を紹介する、体験してもらうという意義もあるが、まずその前に、県民会館スタッフ（制作・技術ともに）が体験する機会という面があった。

特筆すべきは、視覚障害者対象のワークショップ実施にいたる、非常に丁寧な積み重ねである。県民会館は障害者差別解消法施行を受け、「バリアフリーイベント講座」「バリアフリー映画上映会」などを開催し、地域の障害者団体やサポート団体との連携が始まった。島根ライトハウスライブラリーに相談、松江市障害者協会、日本網膜色素変性症協会山陰支部を中心に集まった。事前に丁寧な説明、ヒアリング、相談を行い、視覚障害者の方々がダンスにどのようなことを期待するかを丁寧に聞き取った。また視覚障害についても詳しくお聞きすることができた。継続的な実施を希望されるほど受け入れられた。

### ●課題とこれからに向けて

市民参加の参加者は 10 名。小学生 3 名、20 代 5 名、30 代と 60 代が各 1 名。ほとんどの人が、なんらかの形で過去に県民会館の講座、創作事業に参加したことがある人で、これは会館の事業成果ではあるが、新しい参加者をもう少し獲得したかった。その方策は何か。音楽活動は盛んな土地柄のようだが、ダンスは習い事以外には、自主的な活動をするものはほとんどないのではないかとのこと。

集客には苦戦したが、広報活動は充実していた。ポスター、ちらしは松江城で写真撮影をして作成し、地元の力のある若手デザイナーが大変素敵なものを作ってくれた。アウトリーチは 4 ヶ所とも新聞、ケーブルテレビ、NHK の取材があり、記事や番組で紹介された。反省としては、ダンス作品の具体的なイメージがほとんど外に出なかったのではないかと。グラフィックの素敵なイメージはありつつも、具体的にはどんなものなのか、もう少し映像などを広報に使うことはできなかっただろうか。

当初の目的に、「ダンスや身体表現の楽しさに触れ、興味をもってほしい。楽しんで、今後もダンスをしたいと思ってもらいたい」「ダンスを通じて地域住民同士、住民とアーティストが出会い交流する」ということは達成できたのではないかと。

ホール周辺の松江市には、若い人によるセルフリノベーションのカフェ、本屋、パン屋などが点在している。そのクリエイティブな感性はコンテンポラリーダンスと響きあうものではないか。表現のジャンルを超えて、舞台芸術かどうかの垣根も越えて、クリエイティブなメンタリティを求める人々が集う場になることを願う。回を重ねて蓄積していくことを願う。



# スケジュール

	下見①	
	9/7(水)	9/8(木)
9:00		市内視察
10:00		↓
11:00		↓
12:00		↓
13:00	ホール入り	障害者総合センター下見
14:00	ホール下見	↓
15:00	打合せ	北山本小学校下見
16:00	↓	↓
17:00	チラシ用写真撮影	打合せ
18:00	↓	アーティスト等帰京
19:00	懇親会	
20:00	↓	
21:00	↓	
22:00		

	下見②	
	11/24(木)	11/25(金)
		市内視察
		↓
		↓
		↓
	ホール入り	アーティスト等河内音頭講習
	打合せ	
	毎日新聞取材	打合せ
	インリーチ	アーティスト等帰京
	公募 WS	
	↓	

	実施期間						
	1/24(火)	1/25(水)	1/26(木)	1/27(金)	1/28(土)	1/29(日)	1/30(月)
9:00		市内史跡取材	北山本小学校アウトリーチ①	照明・音響仕込み		出演市民稽古⑥	
10:00		アーティスト等河内音頭稽古	↓		アーティスト稽古		アーティスト等帰京
11:00		↓	北山本小学校アウトリーチ②				
12:00			フィードバック				
13:00	ホール入り	障害者福祉センターアウトリーチ		明かり作りフォーカス	出演市民稽古⑤	公演準備	
14:00	テクニカル打合せ	↓				公演	
15:00	ホール仕込み	美術作業	公募 WS			バラシ	
16:00		↓	↓	音合わせ			
17:00		夕食交流					
18:00						打ち上げ	
19:00	出演市民稽古①	出演市民稽古②	出演市民稽古③	出演市民稽古④	ゲネプロ		
20:00					↓		
21:00					ダメだし		
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

八尾市文化会館プリズムホールでは、アウトリーチ事業には10数年取り組んでいるが、小学校には演劇、中学校には音楽のアウトリーチを行ってきたためコンテンポラリーダンスのアウトリーチは初めてだった。

今回は小学校4、5年生と障害者向けのアウトリーチを実施したが、障害者向けのアウトリーチ事業を企画するのも初めてだった。障害者を対象にした事業を実施したいという思いが以前からあり、今回田村一行さんの豊富なワークショップの実践経験で実現できたことに感謝する。実施先の障害者総合福祉センターの職員との打合せでも、障害者の方を対象にして実施するにあたって実施先の担当者への説明のポイントが掴めていなかったが、田村さんから実施先担当者に説明してもらうことで実施先である八尾市立障害者総合福祉センターのみなさんが納得して事業実施に協力してもらうことができた。

学校アウトリーチでは、市内の中でも外国人の児童転入率が最も高い小学校を選んで申し入れをした。以前演劇のアウトリーチを当該小学校で行った際、日本に来たばかりで日本語が全く分からない子や、うまく日本語で自分の気持ちを表現できないために手が出てしまう子がいると聞いていたため言葉を必要としないコンテンポラリーダンスの効果を感じてもらえるだろうという意図で紹介し、実施先の小学校も喜んで取り組んでくれた。

ワークショップは、大駱駝艦式の体や心をほぐすストレッチからはじまり、ストレッチをしながら「力を抜くことの大切さ」「動くのではなく“動かされる感覚”」「ものの見方を変えてみる」という舞踏の考え方が田村さんから分かりやすく紹介されると、小学校でも障害者施設でも参加者の心や体が温まっていく様子が見えてよく分かり、満足してもらえる内容になった。



障害者総合福祉センター



障害者総合福祉センター



北山本小学校



北山本小学校



## ●公募型ワークショップ

2回実施した公募ワークショップのうち、1回目のワークショップは舞踏を地域住民に体験してもらうことを目的にすると同時に、1月29日の市民参加公演への出演者を募ることも目的としていたため、2回目下見時の11月24日（木）に3時間集中のしっかりしたワークショップを行った。時間があつたので大駱駝艦の基本の“型”をいくつか参加者が体験できた。このワークショップから舞踏＝白塗りで踊る踊りという認識すらなく参加していた方も含めて10名の方が市民参加公演に参加した。

もう1回のワークショップは、2時間で「踊りやダンスに無縁な方も歓迎」と打ち出し、初心者向けの内容で実施。15名の参加者のうち7割が60代以上であった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

インリーチには、八尾市文化会館の職員に加えてアウトリーチ先の八尾市立障害者総合福祉センターの職員の方、八尾市文化会館のボランティア組織「市民サポーター」、八尾市芸術文化振興プラン推進委員と日常的に事業で連携を持っている市内団体に声かけをした。1時間という時間はあっという間で、田村さんのワークショッププログラムの中では最初の準備運動と舞踏の考え方の紹介で時間が足りなくなった。アウトリーチ先の八尾市立障害者総合福祉センターからは4名もの職員が参加してくれた。受け入れ先としてもはじめての試みであり、実施に対して不安をお持ちであったと思うが払拭してもらえるよい機会であったと思う。その他の参加者はホールの事業について理解をより深めていただける機会となった。



## 地域交流プログラム内容

1月26日（木）八尾市立北山本小学校 5年1組

### ●ストレッチ～動くのではなく動かされるを体感する～

まずクラス全員廊下で整列し、静かに教室に入ってくる子どもたち。みんな大人しくしているので今日のワークショップにどれくらい期待してくれているのか読み取るのは難しかったが、ストレッチや準備体操をしているとクラス全体が明るい雰囲気になった。田村さんが「力を抜くこと」のいい点について話しながら仰向けになって背中ジャンプする離れ技や、子どもたちの中にも取り組んでいる子がいる剣道や空手の技をアシスタントの阿目虎南さんと実演してみせ、子どもたちの心を掴んでいく。

### ●舞踏の映像をみる

先の「背面ジャンプ」でもすごいことができる人であることを子どもたちに印象づけられるのは十分であったが、実際に舞踏をしているところの映像を見せ自分たちが普段何をしているのかを紹介して、子どもとのコミュニケーションを深めていく。そこから「踊りという芸術とは何か」という話題にシフト。祖父が孫を慈しむ姿や、焼鳥屋が焼く姿などこの世のすべての動きが見方によって「踊り」として捉えることができると解説。

### ●“便器”だって最高級の美術作品だ！田村一行さんがものの捉え方について語る

続いて、便器や、キャンバス一面が青一色の作品が芸術の世界で最高級芸術ともてはやされていることを紹介し、「ものの価値を決めるのは自分であり、答えはひとつではない」ということをお話される。

### ●大駱駝艦の“型”をやってみる

大駱駝艦の基本の“型”を全員で体験。5年生とはいえもうすぐ6年生になるこの時期は子どもたちも思春期を迎え始めているが、阿目さんを先頭に楽しそうに“鳥”“獣”を演じていた。

### ●デモンストレーション

最後は田村さんと阿目さんが舞踏のデモンストレーション。一瞬にして人間ではない何かに変化する2人を子どもたちが一生懸命見つめていた。



## 公演

## リズム@プリズム 大駱駝艦田村一行 舞踏公演『さても薫風のせい』



当館では市民参加で表現作品をつくる「リズム@プリズム」という事業の一環でダン活に応募し、当初より田村さんには①市民参加作品で、②地域性を取り入れた作品という 2 つの目標を持った創作をお願いしていた。下見では、実際に八尾が地域の魅力として発信している「河内音頭」を 2 回も習っていただいた。そして、歴史民俗資料館や古墳を見ていただいた。田村さんは河内音頭についての本を読み、共演者の阿目さん、土井啓輔さん、テクニカルスタッフの谷口舞さん全員が、八尾が舞台になった映画『悪名』をご覧になって創作に臨まれたそう。

火曜日から日曜日本番まで毎日稽古、というスケジュールになり「原則毎日参加」を打ち出して募集していたため市民出演者が集められるのかが課題であったが、結果的には 10 名の想定に対して 15 名の市民が出演した。年代も 20 歳～70 歳まで、うち 60 歳以上の女性が 11 名。男性は 20、30 歳代が一人ずつ。また稽古の参加率は体調不良で 1 名が 1 回欠席したのみで参加率にすると 99%。

日頃踊っていない市民でもしっかりと作品の世界観を表現できる演出（しかも出番時間も作品の半分 30 分ほどはあった）、田村さんと阿目さんの表現力に加えて尺八奏者の土井啓輔さんの音楽と、尺八とオカリナの演奏（それも即興演奏）が一体となって 1 回ではもったいないすばらしい作品ができた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・すごくおもしろかった！尺八もむちゃくちゃよかった。市民の人たちが 1 週間くらいでここまでできるようになるなんてびっくり！（でもやはり舞踏家のおふたりがかっこいい、舞踏家と尺八奏者の方だけのときはぴりっとしまっていて、市民が出てくると舞踏家が急に先生に見えた。）
- ・思わず自分の身体もふわっと同じように動いているような感覚になって驚きました。はじめてみました。
- ・とても感動しました。特に佳境の人ごみに揉まれるシーンなど涙腺がゆるんでしまいました。
- ・訳が分からなかったけど、とても面白かったです。
- ・何か一場面、一場面が美しい絵画を見ている感じがしました。
- ・初めて舞踏を見たのでよく分からなかったが、体の動きはすごいと思った。
- ・舞踏と生演奏のコラボレーションおもしろかったです。1 週間での練習で大変だったと思いますが、市民参加の方のクオリティが高かったです。
- ・かなり高齢の方の参加もあったようで良かったです。
- ・不気味な感じもりましたが、次に何が起こるのかワクワクしました。
- ・筋肉使いそう・・・本日初めて見ましたが言葉にしがたい感動です。

### ●この事業への応募動機

当館では市民参加で表現作品をつくる「リズム@プリズム」という事業を今年度（平成 28 年度）から実施する計画がありましたが、これまで（コンテンポラリー）ダンス作品プロデュースに取り組んだことがなかったため、どのように事業を組み立てるべきか模索していました。ダン活では地域活性化に志をお持ちでかつ能力と実績のあるアーティストと出会う機会を提供してもらえ、事業実施をサポートしていただけるというシステムでノウハウを培っていくにはとてもよい機会だと思い立ち、応募しました。

### ●事業のねらいと企画のポイント

地域住民がアーティストとともに舞台上に立ち表現活動を楽しむこと、事業を通して市民が交流すること、地域オリジナルの作品を公演することで近隣住民には地域への愛着を深めてもらい、市外から鑑賞に来られる方には八尾の発信をすることを目的としました。

### ●企画実施にあたり苦労した点

田村一行さんご自身の企画能力の高さと寛大な人柄に助けられ、振り返ってみれば課題や反省点はあっても「苦労した」というほどのことはありませんでした。しいてあげるとすれば、目標の 250 名観客を集める仕かけができなかったことです（集客 162 名）。

### ●事業の成果

アウトリーチでは念願であった障害者対象のワークショップを実施することができ、今回をきっかけに施設の方との交流が深まりました。小学校では、担任の先生から「全く日本語が分からない子が 2 名いたが、今日とても楽しんでいた」と聞き、ダンス授業の効果を実感できました。すでに 10 年以上学校へのアウトリーチを行ってきていますが、新しい発見があり、担当者である私だけでなく、関わっていた複数の職員にとってどの実施経験も今後のアウトリーチを中心とした事業に活かせると思いました。

### ●反省点、今後の課題など

課題は、市民参加公演は 10 名の想定に対して 15 名が出演されましたが、うち担当者である私が知り合いの方が 10 人いました（直接声をかけていったことも影響して）。ホール愛好者がたくさんチャレンジしてくれたことはこれまでのホールの活動の成果とも捉えることができますが、今後も市民参加の表現作品創造に取り組んでいきたいので新規開拓もしていくことは地域への波及の観点や事業の目的上もちろん必要であり、出演するまでのハードルの下げ方について考えることがまずひとつめです。

2 つ目は、地域に波及させる仕組みづくりです。八尾がもつ素材を取り上げるオリジナル作品をせっかくアーティストがつくってくれるのだから、もっと波及させて公演にもより多くのお客様を呼ぶことができる方法を考えたいです。

反省点として、振り返ってみると今回、初めてのダン活であったとはいえ、作品に対しての希望がぼやっとしていて作品構想が田村さん任せになってしまったように感じています。もちろんできてきたものはすばらしい作品でしたが、それだけにもっとたくさんの人に見てほしかったです。早い段階でテーマを絞ることでチラシづくりや PR の選択肢も増えていくので、今回の経験を元に自分ももっと作品に対して構想し、アーティストと詰めるべきだったと感じています。

また、事前にダン活公演を見ることができず、ダン活におけるダンス公演のスタンス（舞台美術・照明・音響の規模）を研修でいろいろ聞いても明確に理解できていなかったことが、公演が近づき当館の舞台職員とやりとりする中で認識しました。手前味噌ですが当方の舞台職員はスキルと経験はお客様から高いと評価されるレベルなので結果的には問題なく進行したのですが、アーティストと舞台職員の間立つ制作担当者として仕込みから舞台進行をもっとイメージする必要がありました。

### ●この地域のダン活の特徴

八尾市は、大阪府の東部「河内」と呼ばれる地域の中程（中河内）に位置し、生駒山系を介して奈良県と隣接。その歴史は市を流れる川の流れの変化と共に時代に沿って、多くの古墳が残り、念仏踊り・木遣り音頭を原初とする河内音頭が発祥、大阪夏の陣の激戦地の一つでもあった。（紹介は一気に現代へ飛ぶが）現在は大阪なんばから電車で 25 分、人口約 27 万人、労働世代の家族やアジア系を中心とした外国人居住者も多いという。

さて、この八尾市のダン活は、今年度（2016 年度）からスタートしたダンス for ALL「リズム@プリズム」の事業として開催。ホールが、演劇や音楽を中心に据えたアウトリーチや公演鑑賞事業などを 10 年以上手掛けている実績から、no border：世代や障がいなどを問わず、リズムやダンスを通して自己表現することの楽しさ・豊かさを体感してもらおうという企画（プリズム＝ホールの名称）である。言葉の壁を排し、体を動かして自己表現する体験を通して、その楽しさや豊かさを提案するこの取り組みの第 1 弾として、大駱駝艦の舞踏手：田村一行さんをアーティストとして迎え、八尾市のダン活が実施された。

【アウトリーチ】企画の早い段階からアウトリーチ先を選定し、中国からの居住者が多いエリアの小学校と、初めて取り組む障害者施設でのアウトリーチ。小学校では 4 年生と 5 年生を対象とした本物に触れる舞踏の体験授業は、児童達が自分のからだを知る・見直す時間を過ごしているようにも感じられた。一方、デイサービス事業の他、学習・交流・啓発発信事業を行っている市立の障害者総合福祉センターでは、公募参加の講座として、聴覚・視覚・知的・身体（片麻痺）に障がいのある通所者の方々が参加。体に麻痺がある方とそうでない方が同じ指示のもと、それぞれ体を動かすのは、多少、満足度の違いがあったかもしれないが、今回をきっかけとして可能な運動量の違いに配慮した参加者募集などを工夫されることと思う。

【ワークショップ】事業最終日に行う公演への市民出演者募集・お試しを兼ねた、ダンス経験問わずの「舞踏 1 日入門！」を 2 回目の下見時（事業実施約 2 ヶ月前）に実施。八尾市外からも半数近い約 10 名の参加があった。また、事業期間中には初心者を対象としたワークショップを開催。共に舞踏に興味があるという参加者が多数あり、また、これまでのホール事業などを通して「表現する楽しみ」を享受する 60 歳代以上の方も多く参加された。

【市民参加公演】八尾の地域文化資源（河内音頭）を題材とし、市民も共に出演するオリジナル作品の上演を田村さんに依頼。公演当日の事前打合せでは、来場者見込みが 130 名として報告されたが、最終的に 162 名がご来場された。この作品が世界初演を迎えるには、アーティスト、キャスト、スタッフが一体となって共に舞台上で作品を創り上げていく醍醐味がある反面、制作サイドにとってはまだ見えぬものをなんとか言語化する必要があるが、ご担当の井上さんには、この事業・この作品を語る熱意に揺らぎはないように感じられた。

【加えて】公演チラシ写真用にアーティストを撮影する際、市民参加（登場）を呼びかける形で、モデル兼 PR に協力頂ける方を募集し、チラシを手から手への拡散を企画。今回は多くの方にご登場いただく事は出来なかったが、告知方法などを検討いただき、話題作り・情報告知の一つとして、今後の効果に期待したい。

### ●課題とこれらに向けて

裾野を広げる新規開拓と、地元文化の魅力を更に掘り起こし、市(民)の新たな魅力を創出する新規開拓。初のダンスプロデュース事業となった今回のダン活で獲得された広がりや深さを元手に、ホールが担う芸術文化としての「八尾らしさ」を更に発信・提案していただきたいと思う。



# スケジュール

兵庫県神戸市／神戸文化ホール

	下見①	
	4/5(火)	4/6(水)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		↓
13:00	集合 ホール下見	新聞社取材
14:00	打合せ	
15:00	↓	ホール下見
16:00	↓	打合せ
17:00	↓	↓
18:00	交流会	解散
19:00	↓	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

	下見②	
	11/7(月)	11/8(火)
		打合せ
		テクニカル 打合せ
	集合	打合せ (声楽家参加)
	打合せ	インリーチ
	ホール下見	↓
	打合せ	
	↓	六甲アイランド 小学校下見
		↓
	公募WS	解散
	↓	
	神戸新聞取材	
	交流会	

	実施期間						
	2/6(月)	2/7(火)	2/8(水)	2/9(木)	2/10(金)	2/11(土)	2/12(日)
9:00			照明フォーカス	照明・音響直し	照明・音響直し	照明・音響直し	照明・音響直し
10:00		六甲アイランド小 アウトリーチ①	六甲アイランド小 アウトリーチ③	リハーサル	リハーサル	↓	チューニング
11:00		六甲アイランド小 アウトリーチ②	六甲アイランド小 アウトリーチ④	↓	↓	↓	稽古⑦ 市民参加
12:00		↓	サウンドチェック		明かりつくり サウンドチェック	リハーサル	↓
13:00		神戸新聞取材	テクニカル 共演者入り	リハーサル	照明合わせ	↓	チェック
14:00	集合・打合せ	リハーサル	リハーサル	↓	リハーサル	↓	開場
15:00	リハーサル	↓	↓	↓	↓	稽古⑥ 市民参加	公演
16:00	↓	↓	舞台確認 稽古	稽古④ 市民参加	稽古⑤ 市民参加	↓	アフタートーク
17:00	↓	舞台仕込み	↓	照明打合せ	↓	↓	終演・バラシ
18:00		↓				ゲネプロ	反省会
19:00	市民参加稽古①	市民参加稽古②	市民参加稽古③	声楽家入り	↓	↓	打ち上げ
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	ダメ出し、確認	↓
21:00	↓	↓	↓	↓	市民参加者 懇親会		↓
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

長期的視点で新たな客層の獲得を目指すこと、コンテンポラリーダンスが持つ自由でオリジナルな表現をとおして身体と心の充実を体験してもらうことを目的とし、対象は子ども（教育機関）で設定した。加えて、会館としてダンスのアウトリーチ事業はこれまで未実施であるため、今後アウトリーチ事業を推進していく上での契機と捉えて臨んだ。当初、小学校・中学校と両方で実施を試みたが、調整していく中で実施時期の問題が大きく関わり、中学校を断念せざるを得ないことになった。教育現場に入り込むことの難しさを痛感した出来事だったが、教育委員会の先生方には事業への一定の理解は得られているので、次年度以降で実現に向け調整していきたい。

小学校では、神戸市立六甲アイランド小学校の3年生・4年生に「からだであそぶ」をテーマに実施した。総合して積極的に関わりを持つとする児童が多く、イキイキとした表情が印象的だった。冒頭にキムさんのパフォーマンスを実施したことで児童たちを惹きつけることができた。これは導入としては抜群の効果で、緊張から打ち解けてキムさんの真似を始めるなど、児童が自ら身体を動かしていきたくなる雰囲気づくりに繋がっていた。児童たちはキムさんの動きや普段は見られない友達の違った姿に興味津々で、身体いっぱい自由に表現する楽しさを味わってもらえたと思う。

実施を経て、事業が成功するか否かは、もちろんアーティストの実践内容にも因るが、事前準備でほぼ決まると改めて認識した。今回は特に対象が教育機関だったこともあり、資料を用いたプレゼンのほか前年度の映像をお見せすることだけでなく、実際に体験する場としてインリーチに参加いただくなど多岐に渡るアプローチを試みた。それが不安解消に繋がったと先生から言葉をいただき、当日への理解・協力を得られたことはとても良かったと思う。



六甲アイランド小学校



六甲アイランド小学校



六甲アイランド小学校



六甲アイランド小学校



## ●公募型ワークショップ

ダンスの裾野を広げるという趣旨のもと、ダンス・演劇未経験者に限定し募集した。ただ、例えば「昔は習っていたが今は離れている」人は対象として認める等、基準を緩やかに設定したことで「純粹」な未経験者は少ない印象を受けた。しかし、「人生の Restart!」や「ひとかわむけろ」といった募集キーワードに惹かれて参加したという人が多いこともあり、その線引きなど全く気にならないほどに受講姿勢がみな積極的で、非常に賑やかな時間となった。そして、WS を経てその後も続く参加者間の交流が見られたことがとても良かった。改めてキャッチコピーの強さを体感した。WS では、日常から非日常へ、簡単な動きから掘り下げてオリジナルな動きにしていって過程が興味深かった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

実際に内容を体験することで事業への理解を深めていただくことを目的に、財団関係者・アウトリーチ先の先生・共演者（打楽器奏者・歌手）が参加した。特に、アウトリーチ先の先生方はアウトリーチ当日の内容を事前に把握しておきたいと希望されており、共演者はコンテンポラリーダンスとのコラボレーションは初めてだったため、「何をするかよくわからない」といった漠然とした不安を少しでも軽減できるいい機会だったように思う。歌手からは、身体の使い方・捉え方の新しい視点が得られたことが興味深かったという感想をいただき、公演まで繋がるイメージが持てた有意義な時間になったと思う。



## 地域交流プログラム内容

### 2月7日（火）神戸市立六甲アイランド小学校 4年1組

#### ●ミニパフォーマンス

キムさんがパフォーマンス(1段の跳び箱の上に立ち、ポーズを決めている)を開始しているところに児童が入って来る。最初は距離をとって恐る恐る近づいていくが、1人が一歩前へ出ると少しずつ緊張の糸がほぐれていき、キムさんがポーズを変える度に歓声が上がり真似をしだす等、反応がうねりのように全体に広がっていった。何も言葉を発さずとも意思疎通が見え、キムさんに誘われて体育館を自由に駆け巡っていったのには驚いた。

#### ●柔軟・脱力 ストレッチ

十分に子供たちを惹き込んだところで、一度落ち着いてキムさんの自己紹介と簡単な柔軟ストレッチを実施。児童は何が始まるのか、ワクワクしている様子だった。

#### ●しじみゲーム

3人組に分かれて2人が殻の役で手をつなぎ、1人がその中に入って身の役となる。キムさんの声掛けで殻・身が動き、新たなグループを作っていくゲーム。後半にはグループでオリジナルな動きを付けていくなど変化を持たせた。児童は自由な発想で組体操を始めたり、花の揺らぎを表現したりしていた。

#### ●アルプス一万尺

2人組になり既存のアルプス一万尺の振付けを少しアレンジしたものを覚え、違う曲で踊る。一連の振付けの最後で次の相手を見つけるようにしていて、普段はあまり交流のない児童同士が一緒になったりしている様子が見え、戸惑いながらも協力し合う姿が印象的だった。

#### ●人形ゲーム

2人組で人形と人形遣いになって、自由に動き・ポーズを変えていくゲーム。ラストには児童(人形遣い)が一度会場から出て、再度入場する際に「美術館に来た」という設定を与えられ、展示品を鑑賞するようなイメージを持って改めて自分の作った作品(人形)を見るということをした。やったことを違う視点で見る・感じるという広がりがあり、多面的な学びの場だった。



## 公演

## 伊藤キムダンス公演『惑いの季節』



今回のダン活の大きなテーマが「ダンスの裾野を広げる」ことであり、初めてダンスに触れる機会を多くの人に提供したいという狙いがあった。よって、市民参加型での公演スタイルは特に強い希望（集客に直結する大きな要素でもある）とし、そのほかに、ホール全体を使用した演出、地元音楽家との共演、の大きく3点で公演の依頼をした。音楽家がなかなか決まらず苦労したが、神戸在住の若手打楽器奏者と神戸市混声合唱団に決まり、結果的にホール付きの合奏団・合唱団を有している財団のアピールにも繋がったことは良かった。

作品は、即興による部分が大きかったからこそ、生演奏とのコラボレーションという企画がより活きたと思う。印象的だったのは音楽（音）とダンスの呼応で、アプローチし合いながらその関係性が揺らぐ様子が非常に面白かった。WSからの参加者たちが日進月歩で新しく生まれ変わっていく過程にも目を見張るものがあり、参加者自身が手応えを掴んでいたことも良かった。また、終演後のアフタートークでは観客から感想・質問が多く出て、会話をとおして作品を共に振り返る時間が持てたことはとても意義深かった。そして何より、観客からの反応が非常に良く、初めてコンテンポラリーダンスを見たという方々が、舞台環境（ステージ・オン・ステージ）に驚き、楽しみ、面白かったと喜んでくださったことが大変嬉しく、一番の成果だと思う。ホールとしても普段とは全く違う表情を見せることができ、舞台表現の広がり・可能性を感じられたことがとても良かった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・キムさんが踊る序章からWS参加者による本編という流れが良かった 緞帳が上がって光が差したときはとてもドラマチック。WSの皆さんの表情も輝いていて思い切りよく踊っておられたのが印象的だった 終演後のWS参加者の皆さんの充実感が伝わってきてとても有意義な内容だったと思う
- ・初めてダンス公演を見た。今までなんだかわからないジャンルと思っていたのですがスッと心に入ってきた。動く、静寂、音、舞台、全てが合体したよう。わからないけどおもしろい！
- ・身体表現に馴染みのない人生を送ってきたので、子どものころから機会があれば良かった
- ・見ている私たちの理解力・感覚力が試されているようでそれにちょっとついていけなかったところもあって難しかった。即興であったのが信じられなかった。
- ・コンテンポラリーの世界はよくわからないが創り上げている、研ぎ澄まされている感覚は面白かった。
- ・公立文化施設として意欲的な取り組み（ワークショップからの連続企画）だと感じた。
- ・コンテンポラリーダンスを生で見たのは初めてだったが、無音の中に広がるこすれる音や呼吸の音の一つ一つが重なり一つの空間が完成されないまま仕上げられていくのがとてもステキで見惚れた。生演奏も一緒になると皆さんの踊りと音とが息をするように重なり合っていて気持ちの良い空間だった。

●この事業への応募動機

会館の自主事業のほとんどが音楽や落語などの伝統芸能で占められており、ダンス事業が非常に少ないという現状打破に向け、新たな観客層（特に若い層）を獲得することと、公演ラインナップの充実を図るという狙いがあった。また、WSやアウトリーチといった参加・体験型の事業の展開により、会館を市民に開かれたより身近な存在として機能させたいという考えから。

●事業のねらいと企画のポイント

ダンスの魅力を幅広く届ける・裾野を広げるという趣旨のもと、公募WSではダンス・演劇未経験者を対象とし、今までダンスと縁がなかった人たちに向けた企画とした。公演はその延長に位置づけ、公募WS参加者が出演する市民参加型とした。これには、ダンスに触れる機会をより多く市民に提供できることに加え、会館としてもダンス事業の継続性をアピールできるという狙いもあった。また、初めてダンスを鑑賞するという人たちが飛び込みやすいように地元音楽家とのコラボレーション企画とした。アーティスト間の交流を生みだせたことも良かった。

●企画実施にあたり苦労した点

ひとつには、当然のことではあるが、ダン活の枠組みの中で調整しなければならないこと。様々な要因で下見の日程を先に決めてそれに基づいて諸々調整するわけだが、結局詳細を詰めるタイミングでここぞというときに直接面と向かって打合せができないもどかしさを感じた。また、アウトリーチ先選定にあたっての教育機関（中学校）への説明にも苦労を強いられた。現場の先生たちの理解・協力を得るには「効果」を分かり易く説明する必要があり、指導要領を勉強したうえで自分なりに噛み砕いて説明を試みるなど努力したが、もう一歩届かなかったような気がする。スケジュール面でどうしても実施が無理だったことが大きな理由ではあるが、悔しさの残る結果だった。

●事業の成果

公募WSでダンス未経験者にダンスに触れる機会を創出できたこと、またその中から公演に出演するという市民参加型の公演としたことで、出演者が家族・知人を公演に誘うといういい連鎖を生み、観客の中にダンス鑑賞が初めてだという人々を多く集められた。これらは当初掲げていた事業趣旨に適うものであり、そして何より多くの観客が面白かったと喜んでくださったことが大きな成果だと思う。また、市民の参加者たちが終演後に充実した表情を見せていたことが印象的で、「外に手を広げてみる解放感や快感を知った」と人生を一歩前に踏み出すまさに「人生のRestart!」のきっかけになったと感想をいただき、担当者としてとても嬉しかった。加えて、アウトリーチなどの事業を通して外部との新たな関係を築けたこと、そしてそれを担当者個人に留めず会館自主事業のチームに引き継げたことも大きな財産になったと思う。

●反省点、今後の課題など

細部にまで神経が行き届いておらず、例えばアウトリーチのときにアーティストに寒い中着替えさせてしまったり、本番直前の段取りがうまく機能しないことがあった。今後は事前準備の徹底・関係者間の密な連携を肝に銘じ、気持ちよくスムーズに現場に臨めるようにしたい。また、あくまでもこの事業実施はきっかけでありゴールではないという認識のもと、一過性に終わらせることなく次年度以降にも同様な事業を継続させていけるように環境を整えていきたい。

### ●この地域のダン活の特徴

神戸と言えば、Dance Box や神戸アートヴィレッジセンターなど、演劇・ダンス・音楽に興味を持つ若者層を集客するホールの名が即時に浮かぶ。さらに地域を兵庫文化圏に拡大すると伊丹のアイホールや西宮市の兵庫県立芸術文化センターなども主要な拠点ホールとして人気を博している。近郊にこうした劇場を配す神戸は、ダンスや音楽の観客人口を擁した大都市である。その中であって神戸文化ホールは、クラシックコンサートや落語などいわゆる地方都市の文化会館として、一つの色合いに特化せず市民のさまざまな嗜好に対応するような演目の自主事業を行ってきた。今回新たな試みとして若い観客層の開拓を目的の一つに、ダンス事業を市民の体験・参加型で展開して行こうと考え、ダン活を実施した。

そうしたダンス事業の一連の戦略として、ホールではダン活の数か月前に独自に伊藤キムとGEROを招き、「伊藤キム神戸 GERO 活動」と銘打ち、舞台経験者を公募した市民参加作品を主催した。ダン活ではその時の経験や反省点が有効に活かされ、特に照明、音響舞台のテクニカルチームとのコミュニケーションを円滑に運ぶスタッフ体制が採られた。限られた時間の中で演出・構成・振付を同時にこなさなければならないアーティストにとって、創作現場での余計なストレスを回避できたことは、大きなキイポイントであったと思う。

また、地元のパーカッショストの松田礼央や同じ神戸市民文化振興財団が運営する神戸市混成合唱団の音楽家とピアニストを登用し、文化ホールならではのオリジナルな作品に仕上げることができた。舞台に立つのが初めての市民参加者も日増しに自信に満ちて頼もしく変貌した。「ダンスで人生の Restart!」という WS 公募の謳い文句は、はじめ大仰で気恥ずかしさを覚えたが、終演後の彼らの表情からはまさに再出発の晴れがまじさが溢れていた。観客席も含め会場全体を使った伊藤キムの演出が、普段見られないホールの魅力を引出して、ダンスが初めての観客にも大いに楽しんでもらうことができたと思う。神戸文化ホールが今後もダンス事業を継続して行くための大きな成果になったと思う。

### ●課題とこれからに向けて

文化ホールでは今年度の事業担当の石名さんが退職し、次期の“支援事業”の際には新しい職員が事業を引き継ぐことになっている。担当者が異動や退職で代わってしまうことは、公共ホールの事業にはつきものだが、前任者の経験やノウハウをどう引き継いで行くかが大きな課題である。ダン活は一つの公演を下見から本番まで実施していく中で、会館事業担当者の実地研修という意味合いを強く持っている。担当者はアーティストとの調整や広報や集客など様々な試行錯誤や問題に直面する過程を乗り越え、一年間で見違えるほど成長していく。彼女にしても事前の準備不足だったことやアーティストへの配慮が足りなかったことなど、反省点を自覚できたことこそが今回の成長の証だろう。こうした成長を担当者個人からホール全体の共有財産として継承して行って欲しいと望んでいる。

神戸には観客人口がある。掘り起こせばもっと倍增できる地盤だ。ダンスを扱うにしても Dance Box や神戸アートヴィレッジセンターは小さなスペースなので、文化ホールとは企画内容の棲み分けができるように思う。そうしたすでにダンス事業を活発に行っているホールと情報交換を始め協力体制や連携を取りながら、神戸全体でダンスの活性化を図って行ってもらえたらと思う。



# スケジュール

	下見①	
	6/16(木)	6/17(金)
9:00		市内下見
10:00		↓
11:00		↓
12:00		↓
13:00	集合・昼食	打合せ
14:00	全体打合せ 会場下見	↓
15:00		↓
16:00		↓
17:00		終了
18:00		
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	12/13(火)	12/14(水)
		打合せ
		↓
集合		幼稚園 下見・打合せ
昼食・打合せ		
能勢電鉄 下見・打合せ		昼食・準備
		インリーチ
		↓
緑台高校 下見・打合せ		テクニカル 打合せ
北陵高校 下見・打合せ		
打合せ		終了
交流会		

	実施期間						
	2/27(月)	2/28(火)	3/1(水)	3/2(木)	3/3(金)	3/4(土)	3/5(日)
9:00		準備			テクニカル 手直し		
10:00		公募 WS①	ダンサー入	ダンサー入	ダンサー入	ダンサー入	解散
11:00		↓	準備・昼食	準備	明かりづくり	リハーサル	
12:00	集合・昼食	撤収・昼食	多田神社 三ツ矢サイダー 写真撮影	昼食・移動	昼食	公演準備	
13:00	打合せ	テクニカル 打合せ	準備	準備	舞台場当たり 止め通し	開場	
14:00	準備	↓	北陵高校 アウトリーチ	緑台高校 アウトリーチ		公演	
15:00	幼稚園教員 アウトリーチ	準備	↓	↓		アフタートーク 見送り	
16:00	↓	能勢電鉄 アウトリーチ		↓		バラシ作業	
17:00	撤収	↓	休憩・軽食	移動・軽食	↓	↓	
18:00	交流会	軽食・休憩	準備	明かりづくり	休憩	交流会	
19:00		舞台稽古	公募 WS②		ゲネプロ		
20:00		↓	↓	↓	ダメ出し		
21:00		↓	撤収	↓	↓		
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

当財団では、これまで中学校や福祉施設へ音楽を主体としたアウトリーチ事業を実施してきたが、今回の事業によりダンスを主体とした新たなアウトリーチ先を開拓したいと考えていた。また、「発想の種」「技術だけではない表現力の広がり種」を撒くということを念頭に、実施団体を選定した。

【市立幼稚園教員】日常の習慣動作からイメージを膨らませて、体で表現した動きをダンスとして実際に踊ってみることで、「ダンスの印象が変わった」「子供と一緒にやってみたい」「保育に活かせる内容だった」と、先生方にも好評だった。市内全園（9園）より各2～3名参加いただけたことで、それぞれの園へ持ち帰った際、他の先生へも伝えやすくなっていると思われ、先生方を通して幼稚園全体へ良い種を撒くことができたと思う。

【能勢電鉄株式会社】地域で活動している団体のひとつとして、企業へのアウトリーチを行いたいとの思いがあり、市民のライフラインを支える鉄道会社へのアウトリーチを打診したところ、「装飾列車・イベント列車の運行」「のせでんハイキング」などの企画をされている部門へ向け実施することができた。自分の名前にちなんだ動きを付けながら自己紹介をしていくワークでは、「イベントの際に参加者と一緒にできそう」「ハイキングの準備運動に取り入れられそう」との感想があがった。

【高校ダンス部】表現の幅を広げること、創作する発想のきっかけ作りとして役立ててもらえればとの思いから、市内の県立高校ダンス部へのアウトリーチを実施した。最初は緊張している様子の生徒がほとんどだったが、北尾さんからの「思ったまま自由に動いてみよう」の声掛けに素直に応じ、普段自分たちが踊っているダンスとは違う表現を楽しんでいた。



市立幼稚園



能勢電鉄株式会社



北陵高等学校



緑台高等学校



## ●公募型ワークショップ

【ダンスの先生たちで踊る時間】川西市はジャンルを問わずダンス教室の多い地域のため、指導者同士の出会いの場を提供し、交流の場を作ることを目的に、指導者・指導者志望の方を対象として実施した。指導者向けということで募集を行ったが、“指導者を支援する”活動をされている方にも参加いただけたことは思わぬ収穫だった。北尾さん（Baobab）の作品の一部と一緒に踊り、普段それぞれがされているダンスとは異なるダンスに触れてもらった。

【新しいダンスを踊る時間】小学4年生以上の一般の方を対象に実施したところ、小学生から40代の方まで、幅広い世代の方に参加いただけた。日常の1シーンをイメージしながら踊ったり、北尾さん発案のコンテンポラリー風盆踊りを踊ったりと、新しいダンスに初めて触れる機会を楽しんでもらえた。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

みつなかホール職員と舞台スタッフが参加。アウトリーチ先担当者や当財団の他部署へも声掛けをしたものの、実施日時が通常業務の時間帯であったこともあり、残念ながら参加には至らなかった。

ストレッチをゆっくり行い、ハイタッチ等で参加者同士がコミュニケーションを取った後、体を動かす内容へ。「窓を開ける」「階段をそっと降りる」などの日常動作にイメージを膨らませることをプラスして自由に動く。北尾さんの声掛けで会場は終始和やかな雰囲気だった。

事業を開催するホールの職員もコンテンポラリーダンスの魅力や楽しさを体感でき、事業の内容や趣旨を理解する良い機会となった。



## 地域交流プログラム内容

### 3月1日(水) 公募型ワークショップ「新しいダンスを踊る時間」

#### ●イントロダクション

北尾さんと米田さんが自己紹介を行い、全員とハイタッチをしてワークショップが始まった。空間を自由に歩き、「5.6.7.8!」の掛け声で大人も子供もハイタッチ。自然と笑顔がこぼれ、緊張もほぐれた様子。

#### ●振り付き自己紹介

輪になり、自己紹介をしながら自分の名前や思いにちなんだ動きを作り、コール&レスポンス。北尾さんは“わたる”なので、道を“わたる”動作。各自の動きをリレーしていき、自然と全員の顔と名前が覚えられ、それぞれの個性が見えてきた。最後には名前のコールをなくし、連続した動きを一巡することで一つのダンスになっていた。

#### ●ペアでストレッチ・ウォーミングアップ

ペアになって簡単なストレッチを行い、お互いの体をトントンたたき合ったり、手のひらをすり合わせてから相手の背中へペタッとくっつけて温もりを感じたり。コミュニケーションを取りながらウォーミングアップを行った。

#### ●コンテンポラリーダンスを体験

「朝起きて大きく伸びをする」「大きな窓を開けたら風がビューっと入ってきて・・・」北尾さんが紡ぐ日常の1シーンに動きを付けて、ゆらゆらしたりそおっと動いたり、それぞれにどんどんイメージを膨らませて動いていく。日常の動きがいつの間にかダンスに変わっていくことを体験した。

#### ●コンテンポラリー盆踊り?

先のワークと同様、「蛇口をひねって水を出す」「顔を洗う」など、日常の動作を振付にし、輪になって踊ることで、コンテンポラリーダンスが盆踊り風になった。アレンジとして、ペアで向き合って行うことで、同じ振付でも違った楽しみ方ができた。

#### ●振り返り

最後に、全員が感想を語り、振り返る時間。幼児のお子さんを持つお母さんが、見学にこらえきれずワークに飛び込んでくるわが子を、参加者みんなが温かく受け入れてくれたことに感動し、声を詰まらせることがあった。このワークショップを象徴するとても印象的なできごとだった。小学生、中学生の子供たちは特に、初めて体験するコンテンポラリーダンスと、楽しい出会い方ができたように思う。大人の参加者は、自分も楽しみつつ子供たちの様子もよく見ておられ、2時間で共有した体験や、場の雰囲気がとても良い物であることが伺えた。



## 公演

## 『birth ～Dance×Music～』



音楽ホールの特徴を活かしつつ、ダンスだからできることを。ということで、共演者に楽器奏者を立てることを提案。北尾さんから紹介いただいた、音楽家の岡田太郎さん（悪い芝居）に出演していただき、一部生演奏で踊るプログラムをクリエイションしていただいた。

公演自体は、Baobab のレパートリー（岡田さんからの楽曲提供のあった作品）からと、新作部分とで構成。新作は、岡田さんが事前に川西を訪れ、北尾さんと共にフィールドワークをした際（ダン活期間外）に採取した音をミックスして作成してくださった新楽曲で作られた。川西のために作られた新楽曲は、能勢電鉄川西能勢口駅の発車メロディーにもなっている、市のキャラクター「きんたくん」のテーマや、市の南北に流れる猪名川のせせらぎ、駅の雑踏など、市民にとって馴染み深い音がちりばめられており、北尾さんのダンスと共に観客を楽しませました。北尾さんの振付の一部には、ワークショップやアウトリーチで参加者に体験してもらった動きがあり、観客それぞれに楽しみを忍ばせつつも、一つの作品として魅せる力に圧倒された。

これだけの作品を創り上げていただいたにもかかわらず、集客が伸びなかったことが悔やまれる。他公演へのチラシ折り込みやホームページなどで告知をしたが、届けたい人、世代への情報伝達の難しさを感じた。

北尾さん、岡田さん共にダンスと生演奏とのセッションは初めての試みであり、ホールとしてもダンス公演での張出舞台の使用や、アフタートークを開催するなどは初めてのことで、出演者にとってもホールにとっても初めて尽くしの公演となった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・生演奏付きというのが、特に良かった。（60代・男性）
- ・広い舞台でたった 3 人とは思えない程の迫力に圧倒されました。様々な楽器を使った岡田さんのカッコ良い音楽と、北尾さん、米田さんのダイナミックな躍りのコラボレーションがとても素敵で、またぜひ観たいです。（30代・女性）
- ・川西の思いを込めた曲作りと、ダンスがみごとにマッチして情熱が伝わってきました。（50代・女性）
- ・音がないときも動きだけで音があるように感じるぐらい、とても迫力のある舞台で感動しました。ダンスだけでなく感情や風景を表すことができるのでとてもおもしろいと思いました。本当に良かったです!!（10代・女性）
- ・躍動感あふれる動きに圧倒されました。川西色が散りばめられていたのも身近に感じました。私も身体を使って何かできそうな気分になりました。アフタートークでは気持ちがほっこりできる内容でとてもよかったです。（40代・女性）
- ・はじめての世界で若さをいっぱい頂きました。（70代）
- ・ワークショップでしたダンスが実際に出てきて見ていて楽しかったです。後ろで流れている音楽も普段聞きなれている音がたくさん使われていてコンテンポラリーダンスの自由な感じがすごくおもしろかったです。（10代・女性）

### ●この事業への応募動機

みつなかホールでは毎年、夏にダンスワークショップとその参加者による作品発表会を実施しているが、コンテンポラリーダンスの有料公演というのは実施したことが無かった。新たな参加者の発掘や、ホールの使用法の可能性を広めつつ、プロのダンサーを迎えての鑑賞機会の提供ができればと思い、みつなかホール開館 20 周年のこの年度に応募した。また、職員の人材育成のためでもある。

### ●事業のねらいと企画のポイント

当財団でコンテンポラリーダンスの公演を開催するのは初めてのため、まずは鑑賞の機会を提供することを目的とし、その中でも特に、若い世代を含めホールへの来館機会が少ない人にも、ダンスをきっかけにホールやホールが行う事業を知ってもらい、足を運んでもらえるような事業を目指した。

アウトリーチでは、“ダンス”に対する固定概念を払拭し、ダンス（動き）がそれぞれの個性、オリジナリティーに富んだ表現の一部であることや、コミュニケーションのツールとなることを知ってもらい、踊るだけではない“ダンス”に触れることで、それぞれの活動の参考にしてもらうことを念頭に、行き先を検討し実施した。また、北尾さん自身も指導者へ向けたワークショップは初の試みということで、指導者向けワークショップや、幼稚園教員のアウトリーチなどは、挑戦していただく良い機会となった。

### ●企画実施にあたり苦労した点

やはりアウトリーチ先への説明が難しかった。“プロのダンサーがやってきて交流する”と聞くと、幼稚園や学校は、技術指導や振付などのパッケージを期待し、企業は数字としての成果を期待する。また、インリーチへのお誘いも、“事前に体験してみる（踊ってみる）”となると、「踊るのはちょっと・・・」となる。こちらが考える事業趣旨と、コンテンポラリーダンスがどんなものか、どのようなワークを行い、どのような効果が期待できるかを、自分なりの言語で説明をしたが、理解してもらうのに時間がかかった。

### ●事業の成果

アウトリーチ先の高校ダンス部 2 校の生徒が公演を観に来てくださり、これまで交流のなかった 2 校をつなぐことができたので、今後の両校の交流と活躍に期待したい。また、企業へのアウトリーチは今回初めての試みだったが、実現できたことは、今後のアウトリーチの選択肢の一つとして、可能性を広げられたように思う。

今回、ダン活事業をきっかけに、若年層や、これまでホールに来たことのない人にもホールを知ってもらい、来てもらう、というねらいがあったが、公演アンケートの結果から、来館回数が初めてという方が入場者の約半数を占めたことが判った。アウトリーチやワークショップでも、初めて関わる方との出会いがあり、当初のねらいも達成し、十分な成果が得られた。

### ●反省点、今後の課題など

本番期間までに確認しておくべき細々としたことが漏れていたり、うまく伝えられておらず内部での共通理解ができていなかったりと、担当者の力不足により北尾さんをはじめ、舞台スタッフにも迷惑をかけてしまった。また、広報活動のスケジュールやプランがうまく立てられず、チラシの作成が遅くなり、十分な広報活動が出来ず、結果的に集客に苦戦した。内部のルールもあるが、届けたい情報を届けたい人へ効率よく発信するための工夫と、それに要する時間配分ができるよう、調整力を付けていきたい。

今回のダン活事業を通して、ホールも担当者も初めてのことを多く経験させてもらった。この経験を活かし、まずは北尾さんと共に撒いた種を根付かせ、育てていけるような環境を作るところから取り組んでいこうと思う。

### ●この地域のダン活の特徴

川西市は、兵庫県の東部、宝塚市・伊丹市、大阪府の池田市・箕面市などに隣接、大阪・神戸を通勤圏とし、山と川の自然環境に恵まれた人口約16万人の市である。

川西市ダン活の拠点となる「みつなかホール」は、公益財団法人川西市文化・スポーツ振興財団が指定管理する2つのホールの内の一つ。特に音楽主体ホールとして、オペラ、コンサートなどを中心とした自主事業を展開しているが、開館20周年を迎える本年、音楽ホール＝クラシック（音楽）のイメージから、多様なプログラムの提供を目指すホールとして、幅広い年齢層に向けて、地元「ダンスのある暮らし」を提案する事業として、初のコンテンポラリーダンスプログラムに取り組んだ。担当するのは、このダン活が初めての事業担当となる野木さん。共に活動を行うアーティストとして白刃の矢を立てられたのが振付家・ダンサー・役者として活動する北尾亘さんである。初回の打合せでは、川西市で展開するダン活の趣旨・概要、そしてアウトリーチ、ワークショップ、公演、それぞれの狙いと方向性、対象者についての考え方がよく整理され、アーティストにとっても川西市ダン活での目的・達成意識を共有しやすい状況でのスタートとなった。

【アウトリーチ】(1) 幼稚園教諭対象（市立幼稚園全9園の先生方）：子ども向けプログラムの参考としていただく機会として企画。実施前には、「ダンスはリズムに合わせて踊るもの」という意識もあったと思うが、イメージを膨らませて動く・踊ることは、オリジナリティに富む表現の一部であることを体験。全員でのフィードバックでは、自分で表現すること、ワクワクする気持ちを子どもたちと共有したい、などの感想があがった。下見に伺った幼稚園の園長先生から、近年は子どもの主体性・自主性を重んじる設定保育が中心となり「なりきり遊び」が減っていると伺った。この体験を子どもたちとの時間に生かしていただければと思う。(2) 高校ダンス部生徒対象（緑台高校ダンス部、北陵高校ダンス同好会）：アーティストがゲストティーチャーとしてダンスのテクニックや振付をレッスンすることはせず、表現の幅を広げること、創作する発想のきっかけ作りの機会として企画。日常の動きがダンスとなっていく時間を普段のメンバーと共に過ごし、ダンスは表現のコミュニケーションでもあること、それぞれのイメージや個性を大切にすること（気づく・見出す）こと、イメージする力がチーム全体にも関わっていくことなどを、直接、アーティストから受け取る時間となった。(3) 地元企業対象（能勢電鉄鉄道 営業課）：地元の足として欠かせない交通機関であり、イベント列車の運行などを企画している企画運営・広報担当部署の方々に、今後のイベント発想の種となるような機会として企画。言葉以外に、からだを動かすことやからだを使ってコミュニケーションを図ることができることを感じていただくことができたように思う。

【ワークショップ】(1) ダンスの指導者・指導者対象「ダンスの先生たちで踊る時間」：ダンスのジャンルを問わず、指導者の交流を図ることを目的として企画。みつなかホール・文化会館を利用されている地元ダンス教室の先生方、指導者を支援するネットワークに関わる方が参加。北尾さんの作品レパトリーを共有することによって、ハードで密度の濃い情報交換の時間となる。今回、多くの参加は叶わなかったが、多ジャンルのダンス指導者間の交流、そしてホールの次なる事業やサービスのヒントとなるような機会として継続されてみてはいかがだろうか。(2) 小学4年生以上対象「新しいダンスを踊る時間」（ダンス経験不問）：コンテンポラリーダンス入門編として企画。ジャズダンスやバレエを習う小中学生姉妹やテーマパークのダンサー、育児により踊ることから離れていた方、いつもと違うダンスに挑戦する方など、幅広い年齢層と経験の方々が参加。同じモチーフでも人によって異なる表現となること、人それぞれの身体の中にダンスがあること、勇気をもって投げかけると、何か自分にかえてくることなど、沢山の発見を持ち帰っていただくことができたように思う。

【公演】川西市で誕生する川西市のための公演「birth」：地元ではダンス公演が少ないため、しっかり鑑賞できる作品の上演＋トークを企画。みつなかホールが初めて行うダンス公演、北尾さんの生まれた土地、北尾作品として初の音楽ライブ作品などなど、様々な誕生が重なって作品タイトルとされた。また、共演には音楽家も参加。川西市を題材としたことで、川西市で採取された音を新作楽曲にちりばめられていたことがトークで話題に。アウトリーチやワークショップに参加いただいたご来場者も多く、北尾さん・アシスタントの米田さんが舞台上立つ姿を見て、舞台芸術としてのダンスの魅力が更に加わったのではないだろうか。

### ●課題とこれからに向けて

川西市ダン活でのキーワード：「踊るだけではない」ダンス。地元「ダンスのある暮らし」。

会館20周年を機に市内に植えたダンスの苗が、市民とホールをつなぐ役割として成長することを楽しみにいたします。



# 事業資料

JMS アステールプラザ

A3 ニつ折り

今後の公演情報

【Baobab (北尾亘・米田沙織 出演)】

第10回公演ツアー  
『観測の塔』  
北九州公演：10月1日(土)・2日(日) @ 桜光本町商店街アイアシアター  
京都公演：10月7日(金)～9日(日) @ 京都芸術センター  
仙台公演：10月18日(火)～20日(木) @ せんたい演劇工房 10-BOX box-1

Dance New Air 2016 屋外パフォーマンス  
9月24日(土) 16:30  
@ 元・こどもの舞前  
公式サイト: <http://dancenewair.tokyo>

「Hear to STEP」

11月20日(日) 15:00  
@ まなみーる若見市民会館 大ホール(北海道)  
公式サイト: <http://www.hamanasquart.com>

【北尾亘】

フェスティバル/トークショー-16 まちなかパフォーマンスシリーズ  
ドキュメント『となり街の知らない踊り子』  
脚本・振付・演出：山本幸章  
12月1日(水)～4日(日)  
@ あうるすぽっと水戸エネ  
公式サイト: <http://www.festival.tokyo.jp/>

さんびん「NEW HERO」- 仙台、道の上より - 演劇報告会 & 上映会(仮)  
11月1日(火)  
@ Gallery Conceal Shibuya  
公式サイト: <https://sanpin.theblog.me/>

【米田沙織】

森キリン第9回公演  
『妄想の原』  
12月23日(金)～28日(水)  
@ アトリエ森崎舎  
公式サイト: <http://kelbin4649.wixsite.com/morikiri>

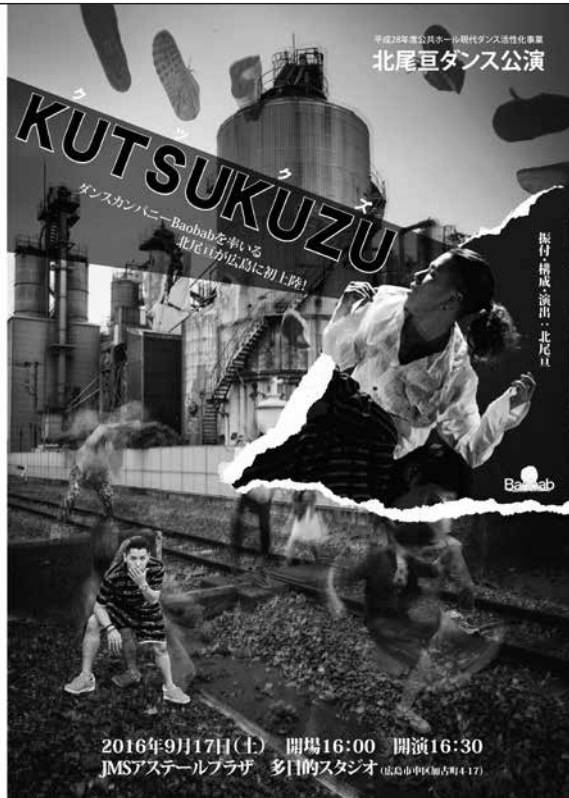
【村田茜】

Dance New Air  
「International Dance Network」  
9月29日(木)  
@ DDD AOYAMA CROSS THEATER  
公式サイト: <http://dancenewair.tokyo>

戯曲本舗プロデュース企画  
『戯曲本舗～HONPO COLLECTION～』  
10月15日(土)  
@ nakano 1st フロア  
公式サイト: [gikyokuhonpo.web.fc2.com](http://gikyokuhonpo.web.fc2.com)

【Baobab・北尾亘の活動情報はコチラ】

HP: <http://dd-baobab-bb.boob.jp/>  
Twitter: [ddi\\_baobab\\_bb](https://twitter.com/ddi_baobab_bb)  
Facebook: <https://www.facebook.com/baobabdancecompany/>



広島のみなさん はじめまして！  
ダンスカンパニー「Baobab」主宰の北尾亘です。  
カーブのリーグ優勝で沸き立つ絶好の時期に、広島の地で初めてお目にかかれることを嬉しく思います。(おめでとうございます！)

「ダンス」というものが色んな人にとってより身近になっている現在。  
コンテンポラリーダンスはアーティストの信念や感覚によって表現が異なり、僕にとっても興味深い世界です。

東京での活動が主ですが、「広島はコンテンポラリーダンスがアツイ都市」という噂をたくさん耳にできました。早くその場所、人々と出会いたかった！

ストリートダンスからクラシックバレエまで、果ては演劇やミュージカル。ダンスに留まらず様々なジャンルの舞台表現に触れてきた経験から、僕の作品には色々な要素がギュッと詰まっています。

一風変わったダンスではありますが、素敵な出会いになること祈っています！  
皆さんの想像力をお借りして沢山の記憶や身体感覚に結びつくように願って、当たり前な存在である「観」をモチーフに作品をはじめようと思います。

カンパニー最新作を早くも大胆にマッシュアップ！  
東京からスタートしたツアー公演に先駆け地方初上陸の広島！  
勇気で正直、11名の素敵な市民の方々をお迎えした特別バージョンでお届けします。(本当に心強い！その眼差しにもご注目を)  
「KUTSUKUZU」から広島ダンスシーンの新たな歩みをはじめよう折って、大切に踊ります。  
北尾亘

- 振付・構成・演出・出演 □ 北尾 亘
- 出 演 □ 米田沙織 村田 茜  
浅田玲菜 岩手萌子 片山和美 金原恵紀  
阪本晴奈 高山太一 竹本 薫 中西あい  
三浦真樹 善岡宏和 吉野早紀 (五十音順)
- 楽曲提供 □ 岡田太郎 (悪い巫婆)
- スタッフ □ 舞台監督 中森伸明  
照 明 福田哲也 (ケアー)  
音 響 景山義彦 (サウンドオフィスクロスロード)

主催：公益財団法人広島市文化財団アステールプラザ、広島市 共催：一般財団法人地域創造 後援：広島市教育委員会

Profile

- 北尾 亘 (Baobab) wataru kitao  
1987年兵庫県生まれ神奈川県育ち。幼少より舞台芸術に興味を持ち、様々なダンスを経験。2006年桜美林大学入学以降、木佐貫邦子に師事。Baobab 全作品の振付・構成・演出を担う。近藤良平、多田淳之介、中屋敷法仁などの作品に出演する他、演劇やCMへの振付も多数手掛ける。近年は、レッスンや大学の講師も務め、積極的にダンスと人々を繋ぐことに奮闘している。トヨタコレオグラフィアワード 2012 オーディエンス賞 受賞 (2012) 第3回エルスール財団新人賞 コンテンポラリーダンス部門 受賞 (2014)
- 米田 沙織 (Baobab) saori yoneda  
1987年東京生まれ千葉県育ち。幼少よりクラシックバレエを習い、桜美林大学にてコンテンポラリーダンスに出会い傾倒する。以後木佐貫邦子に師事。また演劇作品にも出演し役者としても活動する。  
Baobabには初作品「SHACKLES」より参加。2010年『純白のスープ皿の完璧な配置』東京公演参加を期にメンバーとなる。Baobabのほか、舟水輪里香とのダンスデュオ・ヨネエリとして活動。2014年より学生時代以来のソロ作品制作をリスタートする。
- 村田 茜 (MOKK) akane murata  
1989年生まれ。広島県出身。2015年よりダンスプロジェクト MOKK 所属。  
幼少期よりバレエ、ジャズダンス、タップダンス、高校演劇などで様々な表現を学ぶ。桜美林大学総合文化学群演劇専修入学後、木佐貫邦子に師事。同大学卒業後はじゅんじゅん、かえるP、TABATHAなど様々な作品に出演。他に、ダンス・ボディワークスタジオ studioRADAのスタッフとして、スタジオ運営・企画にも携わっている。Baobabには初期より多数出演している。



## (公財) 福岡市文化芸術振興財団

### A4 二つ折り

公演関連企画 ダンサー東野祥子のまちコラボ

《DUGONGへ作品に寄せて》 ランチ&デザートメニュー  
好評につき 10月30日(日)まで会期を延長します。10月16日(日)は  
お休みです。  
trene (中央区警固2丁目9-14) 11:00~18:00 水休

ANTIBODIES Collective 今後の公演情報

「A 界限」とはなんだったのか? インスタレーション&パフォーマンス  
▶□インスタレーション  
日程: 11月3日(木)~13日(日)  
会場: UWU (京都市左京区田中開田町2-7 B1)  
▶□パフォーマンス  
日程: 11月12日(土)13日(日) 16:00開演  
会場: 京都大学 西部講堂 ほか  
(京都市左京区吉田泉殿町東大路通 京都大学 吉田キャンパス内)

主催: (公財) 福岡市文化芸術振興財団、福岡市  
共催: (一財) 地域創造 平成28年度 公共ホール現代ダンス活性化事業  
助成: THE SAISON FOUNDATION  
協力: ALEUS, KIKI boutique, trene, ブックスキューブリック  
Special Thanks: 真木麗様, obagi 様, 杉原通様, 杉原都美様  
平成28年度 福岡市民芸術祭参加

福岡舞台芸術シリーズ 2016

### ANTIBODIES Collective ダンスパフォーマンス「DUGONG」福岡公演

効率が生活の一部始終を支配する加速の世界  
私たちは光速ネットワークで構築された閉域を忙しく行き交う  
時間のかかる政治的プロセスは不可能に近づき  
絶え間ない安全と平和への欲求は  
いつしか殺人兵器となって私たちに手渡される  
いま事象の地平線を一頭のジュゴンが漂っている  
消えがかった蠟燭のように揺れるその遺伝子がみえる  
依拠する場所を失って砂塵のようなデータの中に消えていく  
私たち自身の姿のようでもある  
舞台は時間の反加速装置である  
そこで私たちは行為という始原的な場所に立ち返り  
難民となって「問い」の外へ向かう  
存在の極限を漂流する生命のひたむきな「いま」の中へ  
外出禁止令の刻限はとうに過ぎていく

ANTIBODIES Collective

日時: 2016年10月16日(日) 15:00開演  
会場: 福岡市立中央市民センター ホール

本日はご来場ありがとうございます。

この作品は2015年、横浜/BANKARTでクリエーションを行い、ワークイ  
ンプログレス公演を実施、その後京都/元・立誠小学校全域を劇場として使  
用し、ANTIBODIESの旗揚げ公演として発表した作品です。

現代社会における時間の概念とその諸問題を、舞台の時間、個々の時間、  
もしくは生命の時間、またはや天体運動や遺伝子の螺旋といった現象に結  
びつけて書き起こされたカジワラトシオの「自由回遊型」演出の原案をも  
とに、コレクティブメンバーそれぞれが作品の重要な構成要素となってい  
るパフォーマンスや装置を発案し、発展させることで実現化されました。

この度、福岡での公演を実施するにあたり、コレクティブのメンバーによ  
って演目化された振付やパフォーマンス行為、美術や音響装置の一部を再  
現すると共に、福岡でワークショップに参加して頂いた皆さま、そして地  
域のテクニカルスタッフと共に再構築いたしました。  
この公演に関わってくださったすべての方に、メンバー一同、心よりお礼  
申し上げます。

みなさまがこの空間の中に介在し、お楽しみ頂ければ幸いです。

ANTIBODIES Collective

演出: 振付・出演: 東野祥子

演出: 音楽・出演: カジワラトシオ

美術: OLEO

映像: 齋藤洋平 ( Rokapenis )

特殊映像: 関口大和

演奏: YPY

美術スタッフ: ヤノタカオ、西村立志、Saki chang

音響スタッフ: 田中篤

振付アシスタント: 吉川千恵

出演: ケンジル・ピエン、吉川千恵、JON ( 犬 )、みなみりょうへい、

山本泰輔 ( 以上 ANTIBODIES Collective )

安藤美由紀、池田菜由、岩下愛、梅本芽衣、小笠原萌、小川摩希子、

金子浩一、坂田久枝、櫻井克明、佐藤恵一、岡祥子、立田直也、

にくまる、福島由美、真崎千佳、山口梓穂、山田和音、山本貴之、

余瀬晶子、李詩

照明: 太田勝之 ( 有限会社サム )

照明スタッフ: 八戸大輔

音響スタッフ: 大谷正幸 ( 有限会社九州音響システム )

演出部: 田崎小春

舞台監督: 森田正憲 ( 株式会社 F.G.S. )

朝もやに聞かれた老人の目は、あの日を彷彿と  
うすれゆく大才の記憶  
疾走した神がなる赤装束と  
忘れられない後ろ姿  
しっかりと握られた手には、山の匂いが今も残る  
あの日、あの日の感動を聞いてくれる人がいた  
とびらの向こう、カラリベタリと足音が聞こえる  
変わらない山の人の姿  
「ずっと会いたかったんだよ」  
とつぶやき、少年はまた山を上がる



大髷髭 田村一行 舞踏公演  
**カラリ**  
手を引く  
真紅の子

2016年11月19日(土) 15:00開演  
飯山市文化交流館なちゅら 大ホール特設舞台

主催 飯山市、飯山市教育委員会  
共催 一般財団法人地域創造（平成28年度公民ホール現代ダンス活性化事業）

**場面表題**

1. 思い出は炎の中に
2. 雪虫
3. 夏のヒ
4. みそぐ人
5. 密蔵
6. 疾走する子ども
7. 松太鼓がなったなら
8. 誰が手を引く真紅の子

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。  
飯山のこの美しい劇場で新作を上演できますこと、大変光栄に存じます。桂松楽堂神事をはじめ、懐けることのできた飯山の文化・歴史、目にした景色の数々、探ることのできた全ての方の存在が、私に多くのイメージを与えてくださりました。とりわけ、フリーペーパー「鶴と亀」の小林さんとの一目かけた飯山での撮影旅行は、全ての瞬間に感動があるほど、思い出深いものとなりました。本作では、それらを一つひとつまとめあげた次第です。  
公演に先立ち、一週間は飯山市に滞在し、小学校での授業、児童クラブや一般公募のワークショップなどを通じて、たくさんの飯山の方と出会うことができました。それら一つ一つの出会いを胸に、本日は舞台に立つ所存です。  
最後となりましたが、本公演は多くの方のお力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

田村一行





田村 一行      岡本 彩      谷口 舞

演出・演出・美術：田村 一行  
出陣（大髷髭）：田村 一行 / 岡本彩 / 谷口舞  
テクニカルスタッフ：山本良（大髷髭）  
舞台：池田泰康（なちゅら）  
照明：小山浩典  
監修：野口隆久（なちゅら）  
宣伝美術：小林龍博（鶴と亀）  
パンフレット制作：大村一仁（なちゅら）  
舞台美術協力：北沢商事









平成28年度なちゅらでは、一般財団法人地域創造の公民ホール現代ダンス活性化事業により、コンテンポラリーダンス（舞踏を含む）のアーティストとコーディネーターの派遣を受けました。1 劇団の飯山等県中に学校やホール等でのワークショップと公演を実施しました。



島根県民会館

A3 二つ折り

視覚障がい者関係者向けワークショップ①

8/30 TUE **ダンス 地域交流プログラム**

お話し！ダンスワークショップ 12/19 MON

視覚障がい者向けワークショップ②

1/17 TUE

島根県立大学短期大学部 保育学科1年生 ワークショップ 1/18 WED

松江市立母衣小学校 特別支援学級 ワークショップ 1/18 WED

松江市立大野小学校アクロバット 1/19 THU

平成28年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
田畑真希ダンス公演  
『待つ間が花』

2017年1月22日(日)  
15:00 開演 (14:30 開場)  
島根県民会館中ホール  
全席自由

第一部  
創作ワークショップ作品『松江夜曲』  
〈休憩 10分〉

第二部  
田畑真希ダンス公演『待つ間が花』

音楽：やぶくみこ  
振付・演出：田畑真希  
出演：王子貴司・カスカヤマコ・  
新宅一平・山下彩子・田畑真希  
舞台：戸谷 輝夫  
照明：高尾 真一  
音響：川 夜神

主催：島根県、(公財)しまね文化振興財団(島根県民会館)  
共催：(一財)津浦財団

「ダン活って?」

「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」は、アーティストとホールとが  
共催で企画した地域交流プログラムと公演を(一部)地域創造の支援を受けて  
実施する事業です。今回の開催では、ワークショップや学校アクロバットをほ  
じめ、市民参加の作品作りや田畑さんの公演開催を通じて、身体を使って表現  
する楽しさや喜びを体験することを目的として実施しています。

この1週間、松江に滞在して若者男女の浜山の方々と出会い、踊りました。  
私にとって全ての出会いがとても楽しく、力をもらい、素晴らしい時間でした。  
その締めくくり、私達のダンスとお客様との出会いが、かけがえのない時間  
になりますように・・・

このダンスに決まったストーリーはありません。  
同じ景色の中にも、過ぎ去った時は二度と戻れない。  
眺めてくさむきひとりひとりの中にそれぞれの物語や景色が生まれたりいかな、と  
願っています。  
舞台作品や、ライブの最も大切な主人公はお客様です。  
登場人物の一人として共に体験していただけたら嬉しいです。

最後になりましたが、色々な機会を受け入れていただき、ご協力頂きました全ての方々に  
心から感謝いたします。  
ありがとうございました！！

2017年1月22日  
田畑真希

田畑真希 振付・演出・出演  
ダンスカンパニー「メロメロ」主宰、3歳からクラシックバレエを始め、高校生  
の頃、ワークショップを創ることに興味を持ち、様々な公演を演出するため、  
東京の短期大学芸術科に入学し、演劇、上座、衣装、メイク、アクト等あらゆる表現  
を学ぶ。社会福祉を履修し心理学が専攻テーマの短大で、ダンスとして活躍し  
、伊藤孝典等の作品に参加。2015年より振付家としての活動を始める。横浜シ  
ンクロレーション2009にて「未来に引けなく咲く花」(マスコット)を完成。  
帰郷直前にダンスワークショップ、ユースを創るためのなかで、ダンス制作ワークショップには  
定評があり、7ヶ月13講座にて作品を上出し好評を得る。近年では、日本女子保  
育大学で保育学部附属演劇部等に作品を演出する。シンクロカンパニーで海外でも  
ワークショップを開催し、国際、性別、年齢、国籍などの垣根を超えて、誰もが  
一緒に楽しむことができる身体表現の機会を提供。  
<http://hishanai.com/>

創作ワークショップ参加者

安部のぞみ 内田京子 金行美帆 三島良治 西村和廣  
川次響季 長田桃 福本真輝 母屋幸知子 野瀬育子  
(五十名)

# 八尾市文化会館プリズムホール

A3 二つ折り

## さても薫風のせい

がうまれるまで…



田村一行さん八尾との出会い



「さても薫風のせい」稽古中!



ワークショップやアウトリーチも実施



ワークショップ 180分集中! 舞踏入門!

八尾市立障害者総合福祉センター きつな ワークショップ

八尾市立北山本小学校 ワークショップ



PRISM HALL  
八尾市文化会館

〒674-0802 大尾町八尾市東2-40  
TEL: 0774-244411 FAX: 0774-244400  
http://prismhall.jp  
E-mail: prism@prismhall.jp

主催(公財)八尾市文化振興事業団  
共催(一財)地域創造 平成28年度公共ホール・現代ダンス活性化事業

リズム@プリズム  
大船舵産 田村一行 舞踏公演

# さても薫風のせい

ダンス for ALL 誰でも楽しめるリズム@プリズム

平成29(2017)年1月29日(日)  
14:00開演 (13:30開場)  
※15:00授演予定

## 八尾プリズム小ホール

主催(公財)八尾市文化振興事業団  
共催(一財)地域創造 平成28年度公共ホール・現代ダンス活性化事業

## ようこそ!リズム@プリズムへ

今年度から始まりましたプリズムホールの新しい催し「リズム@プリズム(りずむ・あつと・ぷりずむ)」へ、ようこそお越しくださいました。この事業は、大人も子どもも、また体や言葉が不自由な方も、リズムやダンスを通して自己表現することの楽しさ・豊かさを体感してもらおうとプリズムホールが企画した事業です。大船舵産の舞踏手・田村一行さんには夏から何度も八尾に来てもらい、小学校や福祉センターに行き身体表現を通じたふれあいの場を持ってもらいました。また、史跡名所を回ったりしながら作品を制作していただきました。本番には1週間みっちりお稽古をした公爵のみなさんも出演します。舞踏という人間の体から生まれる自然な動きを活かした表現は、参加した皆さんを元気にし、また和気あいあいとした暖かな気持ちにしてくれました。こうした舞台芸術を通じてプリズムホールは、地域のみなさんの心豊かな居場所になりたいと思っています。新たに始まりました「リズム@プリズム」をどうぞお楽しみください。

### ＜場面表題＞

1. 八尾のワルツ
2. 太古より
3. 見えない人たち
4. 八尾参り
5. 地の神
6. 薫風が吹いたんだい
7. その名のもとに
8. いまいるモノ
9. 舟唄
10. 彼らは何処へ

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。  
たくさん文化・歴史を持つ八尾市で作品を創作できましたこと、大変光栄に存じます。知ることできた八尾にあふれる様々なネタを、一つの躍りとして頂上げる所存です。  
本作はご出演いただいた皆様の存在なくして完成しませんでした。個性的な身体をどうか堪能ください。そして今回、10年来のお付き合いをさせていただき、私や大船舵産の公演の楽曲を作曲くださった尺八奏者、土井啓輔氏の生演奏で、はじめて作品を上演することが叶いました。自分にとって忘れられない公演となりそうです。  
この一週間ほど八尾市に滞在し、色々な所でワークショップをさせていただきました。それら一つ一つの出会いを胸に、本日は舞台上に立ちたく思います。  
最後となりましたが、この事業・公演は多くの方のお力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

田村一行

### ＜出演＞



田村 一行  
(大船舵産)



阿目 虎南  
(大船舵産)



演奏  
土井 啓輔

### ＜市民出演者＞(30名程)

稲田喜世子	大嶋奈央子	葛尾康恵	小林都子
佐藤恵美	城 優子	種谷太喜子	中川義隆
原 由恵	細田拓海	堀江利代	松谷純子
山中葉幸	山本貞子	頼政敏子	



振付・演出・美術: 田村 一行 (大船舵産)  
音楽: 土井啓輔 他  
テクニカルスタッフ: 谷口舞 (大船舵産)  
舞台: 中田勝久 ((公財)八尾市文化振興事業団)・伊藤勝人 (日本ステージ (株))  
照明: 中尾真由美 (株) 東京舞台照明大阪  
音響: 日笠良紀・茂木貴昭 ((公財)八尾市文化振興事業団)  
宣伝美術: (株)ヌマタ印刷  
宣伝写真撮影: 山田哲生  
企画制作: 北芝敦子・井上恵理子・竹本祐美 ((公財)八尾市文化振興事業団)  
協力: 河内音韻記念館・常光寺・おんじやま古墳学習館・市民チランモデルのみなさん

# 神戸文化ホール

## A3 二つ折り

### 日常から非日常へ

この作品は二つの場面で構成される。まず「室内の対話」、そして「外の世界」に開かれ新たな空気が入り込む。「声ダンス」。見えない声に揺られ右往左往したのち、「恋いの季節に花開く」。くすぶっていた蕾が百花繚乱を詠む。そして最後に「世界の果てへ」で終幕を迎える。

『恋いの季節』というタイトルには、私を含め今回の創作のために集まったみんなの気持ちも込められている。「今の自分から抜け出して新しい風景が見たい!」という思い。当たり前の日常が、徐々に形を変えて非日常へと移行する。そんな空間を込めてみた。

という前置きはともかく、観客のみなさんが感じたとおりにご覧いただければ、と思うのである。

伊藤キム

いままでずっと同じだった  
いつも同じ場所、同じ時間、同じヒトたち  
そろそろ次の自分に出会うころかも  
のるか、そるか  
やるなら、いましかない

#### 【構成・振付・演出・出演】

伊藤キム (イシノキタのイシノキタカンパニー-GERO 代表)

#### 【演出アシスタント・出演】

後藤小ざり (GERO)

#### 【出演】

KEKE (GERO)

公募ワークショップ参加者  
上良美紀/江ノ島秋人/大西昌子/岡本知佳/椎草英/  
唐澤千夏/萩野佳代/三宅尚佳/宮本新平/山本雅史

#### 【演奏・作曲】

松田孔央 (パーカッション)

#### 【演奏】

神戸市混声合唱団

金岡侑奈 (ソプラノ) 武久竜也 (バス) / 中村志介 (ピアノ)

#### 【作曲】

松平敏

#### 【舞台監督】

原口穂子

#### 【宣伝写真】

薄井一誠



いままでずっと同じだった  
いつも同じ場所、同じ時間、同じヒトたち  
そろそろ次の自分に出会うころかも  
のるか、そるか  
やるなら、いましかない

2017.2.12 神戸文化ホール大ホール  
※舞台上座席  
開場 14:30 開演 15:00

◆主催：(公財)神戸市民文化振興財団 ◆共催：(一財)地域創造

### ▶ 神戸文化ホール×伊藤キム

神戸文化ホールは、振付家・ダンサーの伊藤キムさんと昨年よりダンス事業に取り組みました。本日の公演を踏えるまでに共に歩んできた軌跡を振り返ります。ダンスの魅力をより多くの人に届けたいと企画した公募型ワークショップでは、対象をダンス・演劇未経験者とし、『伊藤キムとダンスで人生のRestart!』というタイトルで開催しました。「ひととひとが」というキーワードで非日常の瞬間を打破したいと意気込んだ参加者たちが集まり、はじめてダンスに触れる人たちの時間を待ちました。また、自由から改めて表現することの楽しさを体感してもらおうと、神戸市立六甲アイランド小学校へ「からだであそぶ」をテーマに出張ワークショップを実施しました。児童たちはキムさんの動きや音は見えなくても伝わるダンスの楽しさを体験し、イキイキとした表情がとっても印象的でした。神戸文化ホールは、これからもダンスを通してたくさんの人たちとの交差を生きた活動を続けていきたいと考えています!



公募型ワークショップ  
『伊藤キムとダンスで人生のRestart!』  
日程：11月(日)19:00-21:30  
会場：神戸文化ホール・ホールA



出張ワークショップ (アクトリーナ)  
日程：2月(日)19:45-21:30/11:00-12:25  
会場：神戸市立六甲アイランド小学校  
対象：3年生、4年生

### ▶ Information

GERO最新作『家族という名のゲーム』  
3月3日~5日 かねつてホール (横浜市神奈川区文化センター)  
作・演出・出演 伊藤キム  
出演 後藤小ざり、KEKE、八木光太郎、菅原理子  
詳細はGERO公式サイトへ <http://gero.kim>

神戸在り関西のライブハウスを中心に活動している打楽器奏者の松田孔央と、神戸市混声合唱団のメンバーを共演者と、ダンスと生演奏のコラボレーションが実現しました。ジャンルを越えたアーティスト同士の交流をご観覧ください。また、公演には事前に実施した公募ワークショップの参加者も出演します。オリジナルな表現を追求した参加者たちの登場シーンにご注目ください!

### ▶ 出演者一言メッセージ

#### 市民ダンサー

##### 上良 美紀 (Michi Ura)

見えない何のからにないけどさつつけます。

##### 江ノ島 秋人 (Akihiro Enoshima)

人生まではいいませんが、何かのキッカケが欲しい。されるように、譲ります。

##### 大西 昌子 (Masako Onishi)

「自分の殻をぶち壊し」に呼ばれて応募しました。今を覚悟です! 鬼鬼の悪戯です。

##### 岡本 知佳 (Tomoka Okamoto)

未経験者募集の音源に等号を押しつけられたこの世界。身体の内面にある何かをひたすら表現するまで踊りたい!

##### 椎草 英 (Eiko Katsukawa)

見たら知らず知らずのうちにハマっている。それは恋愛感ではあるけど、もっとも面白くない。想像できない私が出たら何よりです。

##### 唐澤 千夏 (Chikako Karasawa)

「自分を愛したい」と思っただけで応募しました。おかげで、呼吸の癖と向き、思考の癖と向き、楽しみたいです。

##### 萩野 佳代 (Kazuyo Hagiwara)

本日は二公演あり、ありがとうございます! 何気ない日常の動作がどうダンスになるのか、ぜひ見せてみて下さい!

##### 三宅 尚佳 (Nozuka Miyake)

一生に一度の貴重な経験なので悔しみがら五つ真鍮は、本音に届きたいです!

##### 宮本 新平 (Shinpei Miyamoto)

人生の中で初めて踊る日が来るのが一番嬉しかったです。楽しみです! 舞台が大好きです。

##### 山本 雅史 (Masahiro Yamamoto)

運動不足のアーティストが中絶サラリーマン (白粉屋敷) の音源の集りに見たら一回だけ踊りか

#### GERO:

##### 後藤 小ざり (Kozaari Goto)

カラダの振動が「声」によって伝達されていくのが快感。出演者全員個性豊かです! 是非お楽しみください。

##### KEKE

神戸の方にも何かを感じてもらえように、不思議な世界をお届けします!

#### パーカッション: 松田 孔央 (Kana Matsuda)

【音楽家を楽しむ】聴感も声も文字も想像以上に伝わるのではないのでしょうか? 音もリズムも楽しんでいます!

#### 神戸市混声合唱団:

##### 金岡 侑奈 (Yuna Kanaga)

ドキドキワクワク歌い手も心も燃えています! 生演奏ならではの時にしか聴き出せない音も楽しんでいます!

##### 武久 龍也 (Ryuichi Takeda)

私にとっても新しい経験! どのような形で音楽が関わってくるか、どうぞお楽しみ下さい!

##### 中村 志介 (Shisuke Nakamura)

ダンスの行われる空間で劇しくピアノを演奏させていただきます!



## 平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

---

### 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

### 2 対象団体

原則として、当該事業を実施したことがない以下の団体を対象とする。

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

### 3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

### 4 事業内容

当該事業の実施団体は、次の事業を実施する。なお、(1)と(2)は、原則として、合わせて 6 泊 7 日以内の事業日程で行うものとする。ただし、企画の内容等により、当該日程の範囲内で事業を実施することが難しい場合は、関係者間で協議し地域創造が認めた場合において、現地下見（個別研修）を含めた日数の範囲内で行うことができるものとする。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

#### (1) 公演（ダンス公演）

公共ホール等で開催する有料のコンテンポラリーダンス公演（以下「公演」という。）を 1 回実施する。

なお、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

#### (2) 地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ<sup>(※1)</sup>及び公募等によるホール内で実施するワークショップ<sup>(※2)</sup>を 5～6 回実施する。なお、アウトリーチは最低 3 回、ワークショップは最低 1 回実施する。

※1 1 回 90 分を目安とする。

※2 1 回 120 分を目安とする。

#### (3) 関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む。）の学校や福祉施設等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ<sup>(※)</sup>を 1 回実施する。

※ 60 分を目安とする。



## 5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、別紙2に定める額を上限として地域創造が負担する。ただし、下記以外の現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、会場要員費その他の諸経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、実施団体の負担とする。

### (1) 公演、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

#### ① アーティスト等（登録アーティスト、アシスタント<sup>(※1)</sup>、共演者及びテクニカルスタッフ等<sup>(※2)</sup>）派遣経費

出演料又は謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

※1 地域交流プログラムのアシスタント及び公演の共演者である者をいう。

※2 公演準備（地域交流プログラムを除く。）のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手及び制作者等をいう。

#### ② 公演負担金

実施団体が支出した公演に係る経費のうち、仕込から本番期間のテクニカルスタッフ（舞台監督、照明・音響オペレーター等）経費で、地域創造が認めたものについて、10万円（税込）を限度として負担する。

ただし、テクニカルスタッフ等の派遣が無い場合に限る。

### (2) 現地下見（個別研修）に係る経費

登録アーティスト及びテクニカルスタッフ等の交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、現地下見（最大2回まで）及び実施時に行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3

平成28年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類及び実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成27年6月5日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2（2）及び（3）に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。

- 
- (2) **事業実施計画案** …別記様式 2-1、2-2  
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) **事業実施計画書** …別記様式 3-1、3-2、3-3  
事業実施 2 か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) **事業実績報告書** …別記様式 4-1、4-2、4-3  
事業終了後 30 日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ・パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。  
ただし、平成 29 年 3 月 16 日（木）以降に事業が終了する場合には、平成 29 年 4 月 14 日（金）までに提出すること。
- (5) **公演負担金請求書** …別記様式 4-4  
該当する経費がある場合は、事業終了後 30 日以内に、別途指定する関係書類を添えて提出すること。  
ただし、平成 29 年 3 月 16 日（木）以降に事業が終了した場合は、平成 29 年 4 月 14 日（金）までに提出すること。
- (6) **変更承認申請書** …別記様式 5-1、5-2  
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。  
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

- (1) **共催に関する表示**  
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。  
(表示例) 共催：一般財団法人地域創造、共催：(一財)地域創造
- (2) **損害賠償の免責**  
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) **関係書類の提出**  
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) **情報提供**  
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) **その他**  
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。  
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

## 登録アーティスト

- ・平成 27・28 年度 登録アーティスト（計 6 組）  
青木尚哉、伊藤キム、北尾亘、田畑真希、田村一行、東野祥子

## 参考

事業の流れ・手続き等

## ●平成 27 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
5 月～6 月上旬	申込み受付（6 月 5 日（金）締切）	事業申込書 （別記様式 1-1、1-2、1-3）* （*要綱 2（2）及び（3）に該当する 団体は、地方公共団体の長の副申 書（別記様式 1-4）を添付）
7 月上旬	事業内定通知	
8 月 3 日～5 日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 （開催場所：東京芸術劇場）	
8 月中旬	事業実施計画書の提出	事業実施計画書 （別記様式 2-1、2-2）
9 月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・ 通知	

## ●平成 28 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月上旬	事業決定通知	
4 月～	現地見（個別研修）の実施 （関係者向けワークショップの実施）	
事業実施 2 か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で 契約の締結	事業実施計画書 （別記様式 3-1、3-2、3-3）
事業終了後 30 日以内	実績報告、負担金の請求	事業実績報告書 （別記様式 4-1、4-2、4-3） 公演負担金請求書 （別記様式 4-4）

## 地域創造が負担する経費

### 1 公演、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

#### ① 登録アーティスト

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラム並びに1回の関係者向けワークショップに係る出演料
- ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

#### ※ 出演料に含まれる経費

（ワークショップ講師・公演出演料、振付・演出料、衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費、照明・音響プラン料、制作費、稽古場代、公演に使用する映像ソフト代、写真使用料、広報・宣伝及びプレ・アフタートーク等関連企画への協力、個別研修、経常経費、飲食費）

※ 関係者向けワークショップに係る宿泊費及び日当、交通費、損害保険料は、現地下見（個別研修）に係る経費で支給する。

#### ② アシスタント（登録アーティストがソロの場合に限り1名まで対象とする。）

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラムに係る出演料
  - ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
  - ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
  - ・ 損害保険料
- ※ 「4 事業内容」のただし書きにより事業を行う場合には、上記に加え、必要に応じて現地移動費を除く1往復分の交通費、宿泊費及び日当を負担する。

#### ③ 公演の共演者（1名）

- ・ 1回の公演出演料
- ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

#### ④ テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 公演準備に係る謝金
  - ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
  - ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
  - ・ 損害保険料
- ※ テクニカルスタッフ等が派遣されない場合に限っては、公演負担金（交通費等を除く）として10万円（税込）を限度として負担する。

### 2 現地下見（個別研修）に係る経費

#### ① 登録アーティスト

- ・ 1泊2日以内で2回分までの宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く2往復分までの交通費
- ・ 損害保険料

#### ② テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 1泊2日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

### コーディネーター

#### ●佐東 範一(プロデューサー、NPO 法人 JCDN 代表)

1980年舞踏グループ「白虎社」の創立に参加。以後1994年の解散までの国内公演、海外ツアーにて舞踏手兼制作者として活動。1996年アメリカ・ニューヨーク、ダンス・シアター・ワークショップにて1年間のアートマネジメント研修。1998年から3年間の準備期間を経て、2001年NPO法人JCDNを京都にて設立。ネットワーク型NPOとして、「踊りに行くぜ!!」開催、「コミュニティダンス」の普及、ダンス・イン・レジデンスの推進、ダンスによる復興支援活動など、日本全国にて社会とダンスをつなぐ様々な活動を行っている。

#### ●志賀 玲子(プロデューサー)

2005～2009年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。1990～2008年兵庫県伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー。2000～2007年びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター。2003～2006年京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。他、一般財団法人地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作、等。2005年6月より、神経難病ALS発病の友人の支援を開始。現在、京都/西陣で織屋建の町家を改造しダンスの稽古場を併設した空間で、24時間他人介護による独居生活<ALS-Dプロジェクト>をコーディネート。介護福祉士。

#### ●菊丸喜美子(プロデューサー、(株)CAN代表取締役)

アートマネジメント、文化政策全般に関する講座の企画・運営のほか、国内外のコンテンポラリーダンスの企画制作に早期から携わる。フォーサイスカンパニーを初めとする海外アーティストの招聘、国内アーティストのプロデュースを手がける一方、地域の公共ホールとアーティストを結ぶ活動にも積極的に取り組み、地域滞在型(アーティスト・イン・レジデンス)のワークショップと公演、市民参加型の事業にも多数の実績を持つ。また、演劇、音楽、美術をはじめとするジャンルを超えた芸術・文化活動全般にも意欲的に取り組んでいる。CAN代表。独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(舞踊)。

#### ●花光 潤子(パフォーミングアーツプロデューサー、NPO 法人魁文舎代表)

演劇・ダンス・ビデオアート・現代音楽などの現代芸術から伝統芸能まで、ジャンルを越えた実験的な舞台芸術作品を多数企画プロデュースする。海外との芸術交流も多く、1984年エジンバラ演劇祭招待参加を皮切りに日本人アーティストの外国公演のオーガナイズや外国のカンパニーの招聘公演、国際共同製作などを手がける。アジア女性演劇会議、日韓友好記念舞踏フェスティバル等の事務局長を歴任。1990～1992年オルタナティブスペース「246CLUB」の海外部門ディレクター、1992～1997年まで藤沢市湘南台市民シアターで芸術監督太田省吾氏の下、自主事業の企画制作に従事。その経験を活かし、地方都市の文化行政や施設運営に関する芸術環境整備の提言、調査研究などの仕事にも携わる。1996年から10年間大阪のIMI大学院スクールにてアートマネジメントの人材育成に務め、現在多くの卒業生が全国各地の文化施設で活躍している。

#### ●平岡久美(Dance in Deed! 代表)

主にコンテンポラリーダンスの制作として、黒沢美香、川村美紀子をはじめ多くのアーティストの公演やワークショップの開催に携わるほか、トヨタコレオグラフィアワード、青山劇場・青山円形劇場(こどもの城)等の制作に参加。2003年「フランスダンス2003」事務局次長、2009・2012年「ダンストリエンナーレトキョー」プロデューサー、2014年～「Dance New Air-ダンスの明日」プロデューサーを務め、ダンスフェスティバルの企画・運営も行う。近年は、篠原聖一、下村由理恵、キミホ・ハルバートなどバレエ公演の制作も手がけている。

#### ●清水幸代(LANDSCAPE 代表)

京都出身。2001年日本女子体育大学(体育学科/芸術スポーツコース)卒業。慶應義塾大学アート・センター主催「アート・マネジメント・エキスパート・セミナー」修了。文化庁インターンシップ国内研修員として、新国立劇場、日本芸能実演家団体協議会などで研修。トヨタ自動車株式会社メセナ主催事業「トヨタコレオグラフィアワード」の立上げ及び事務局運営に携わる。2004年よりせたがや文化財団・世田谷パブリックシアターに勤務。企画・制作スタッフとして公演事業、教育普及事業、フェスティバル運営、人材育成事業、アーティスト支援などに多数携わる。2014年より京都に移住し、街や劇場・大学など既存の空間や組織と協働しながら、様々な事業を企画・運営。文化芸術振興と創造環境のデザインをテーマに活動を行う。2017年より文化芸術創造拠点・京都プロジェクト実行委員会準備会委員。

平成 28 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／平成 29 年 6 月